月刊 FALCOM MAGAZINE

Vol.132



ファルコムニュース

『軌跡』シリーズだからこそできる
新感覚書籍！
**魔法少女
まじかる☆アリサ
決定稿**

ガルシスによりみんなが大増殖!?
**も～っと集まれ！
ファルコム学園**

エリゼが一足早くプレゼント!?
『英雄伝説 暁の軌跡』

因縁の“最強”を前にアガットが立ち上がる！

英雄伝説 空の軌跡SC
～絆の在り処～

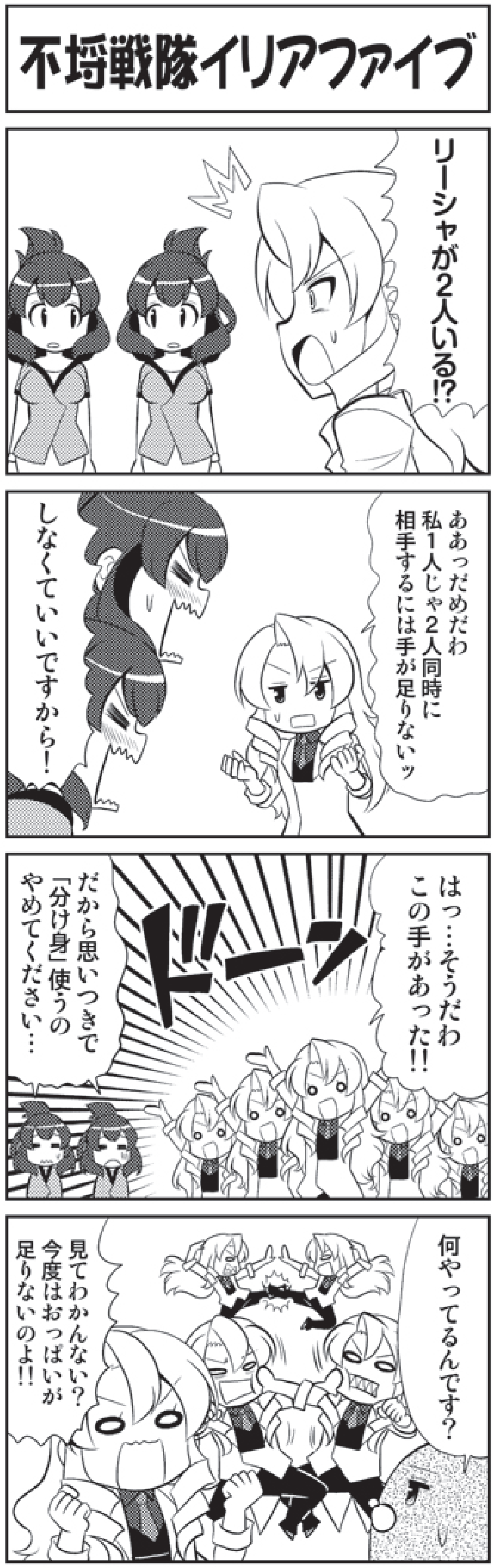


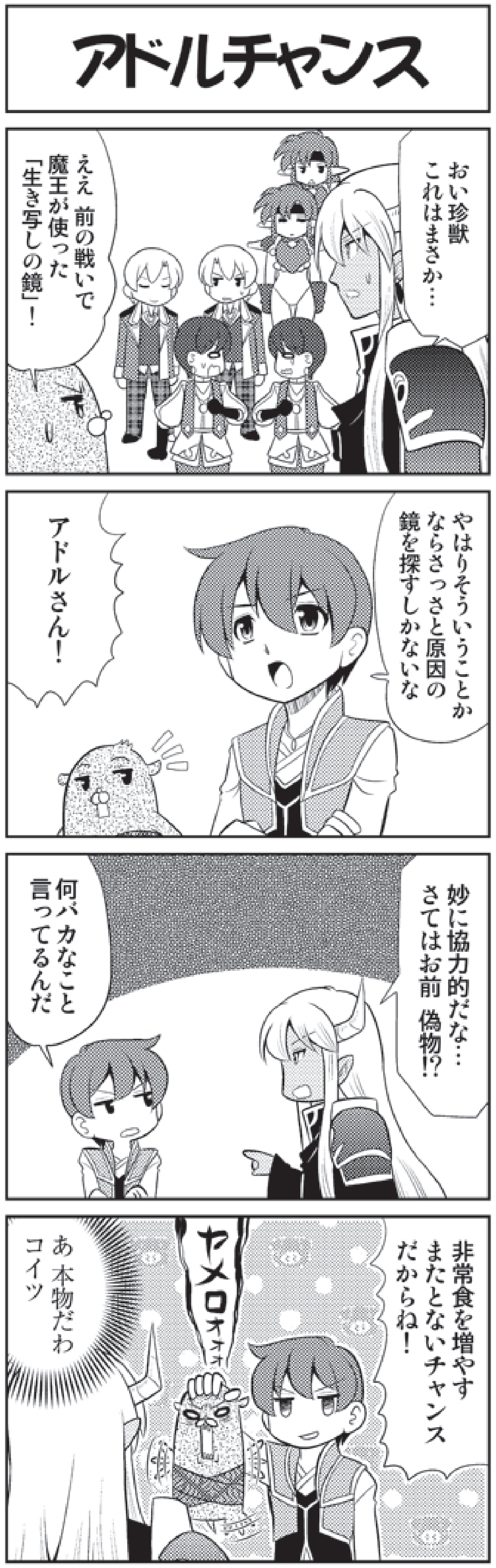
FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

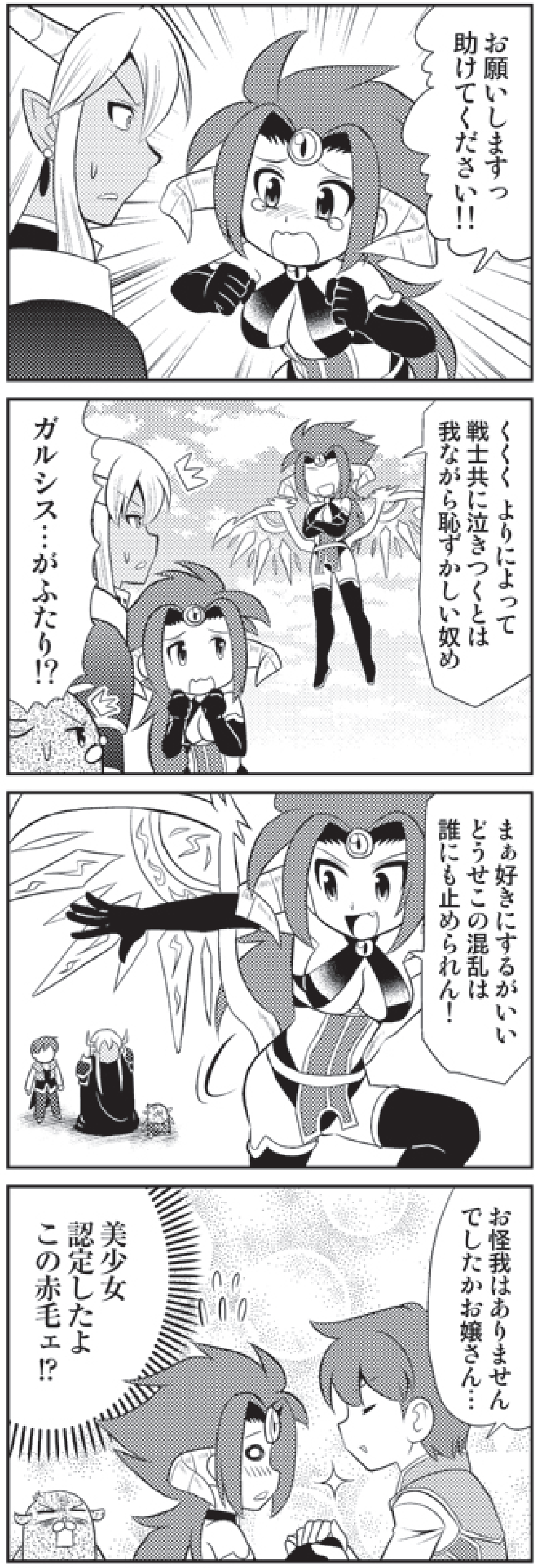
★1人が2人に…! 作画の手間も2倍に…!?(デジタル万歳)★



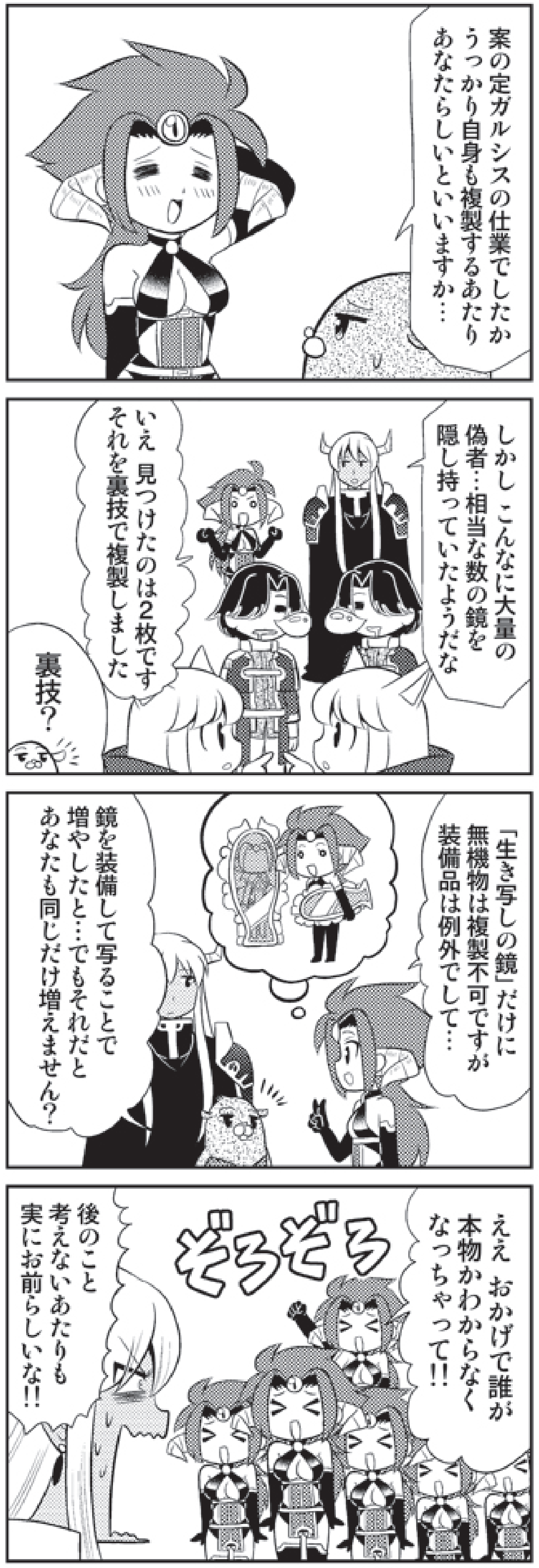




美少女魔王



ガルシスらしさ



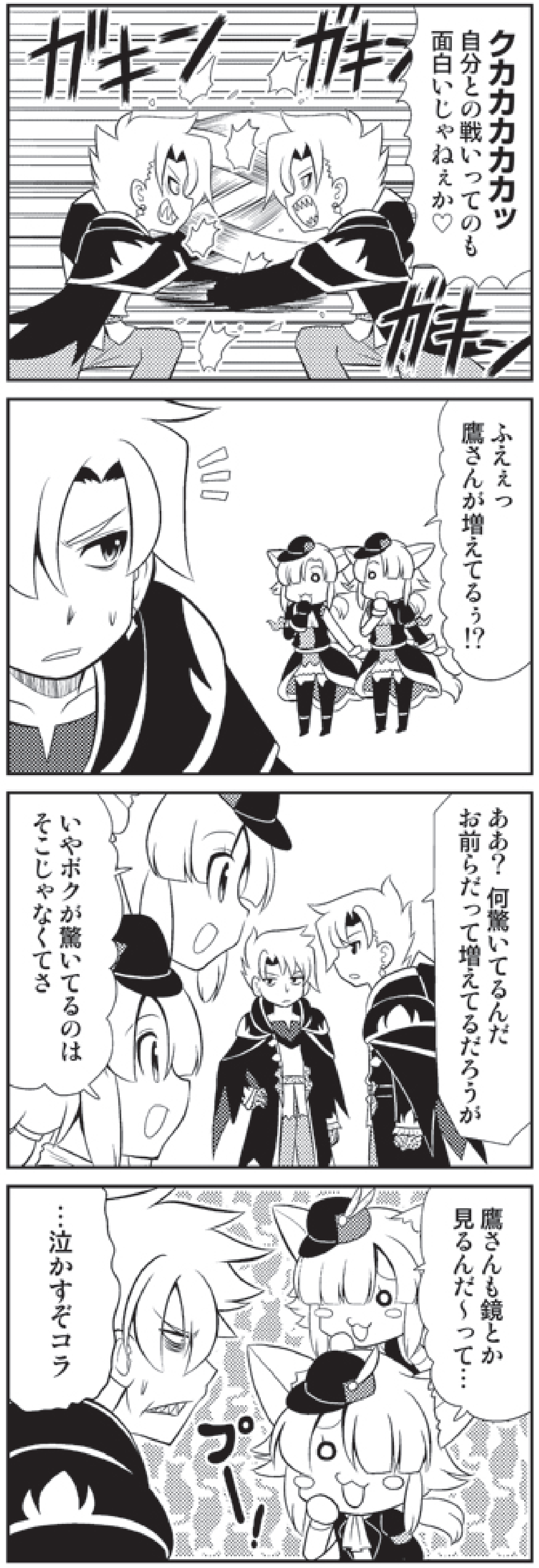
折れた魔王



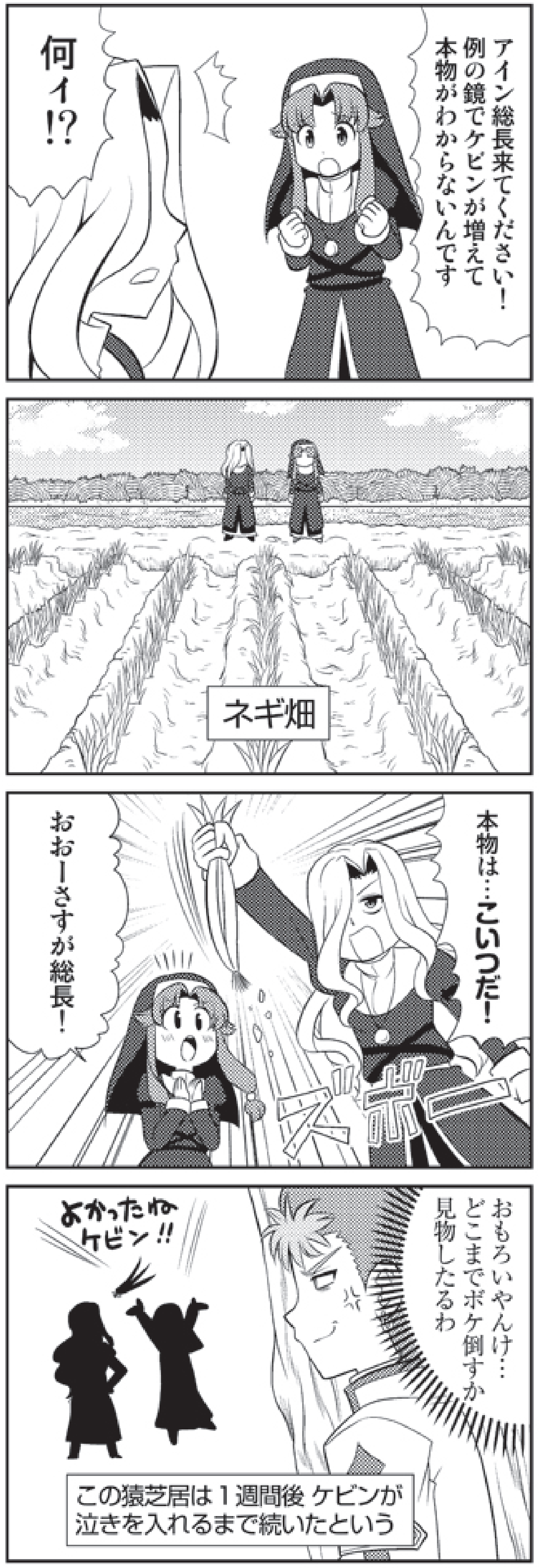
ボスキャラの苦労



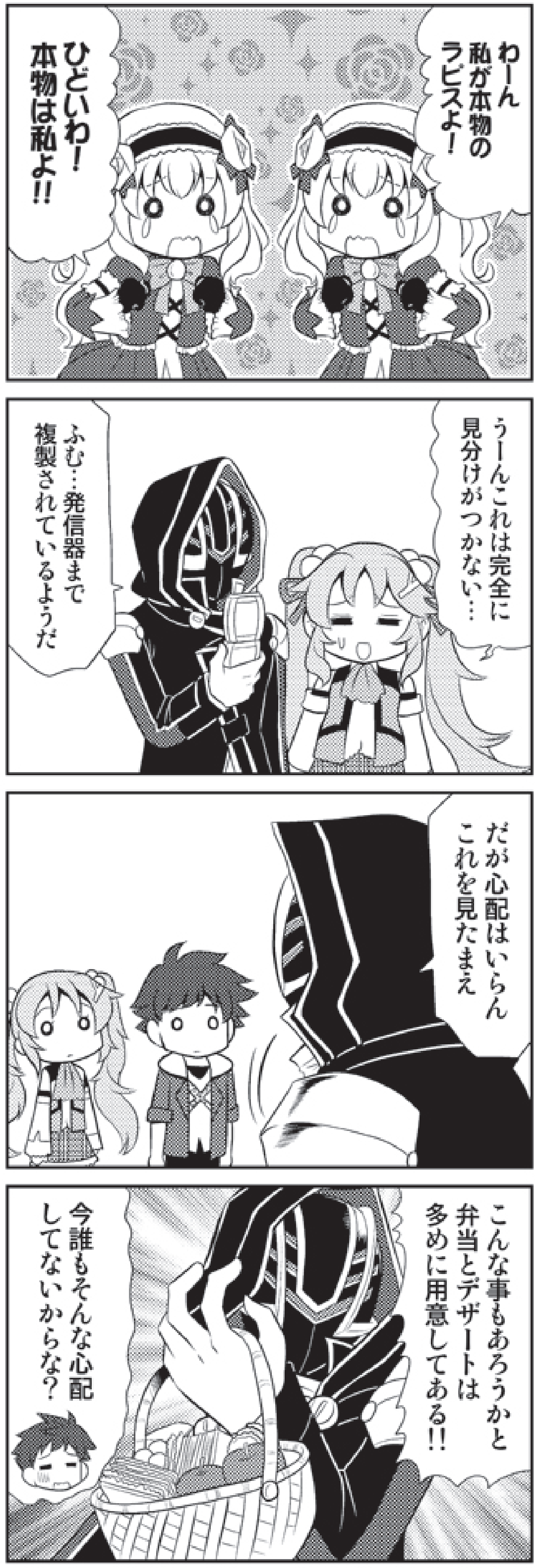
ビックリの理由



地獄の猿芝居



用意周到なピクニック隊



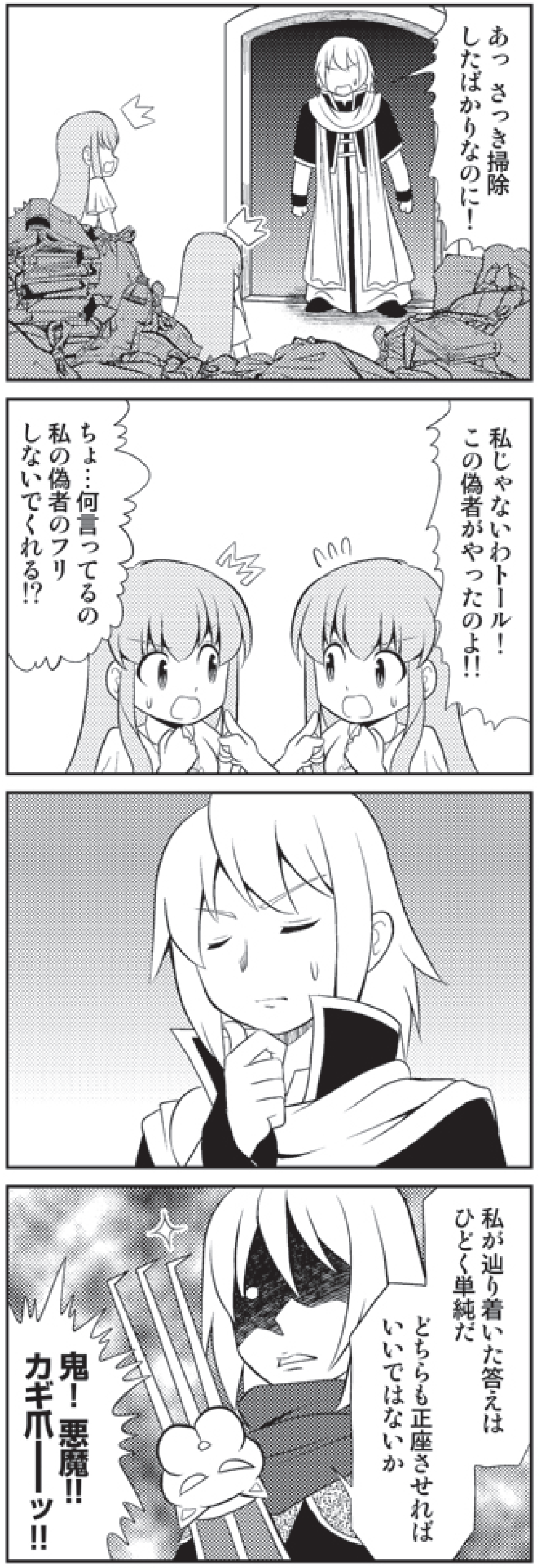
シンプルな見分け方



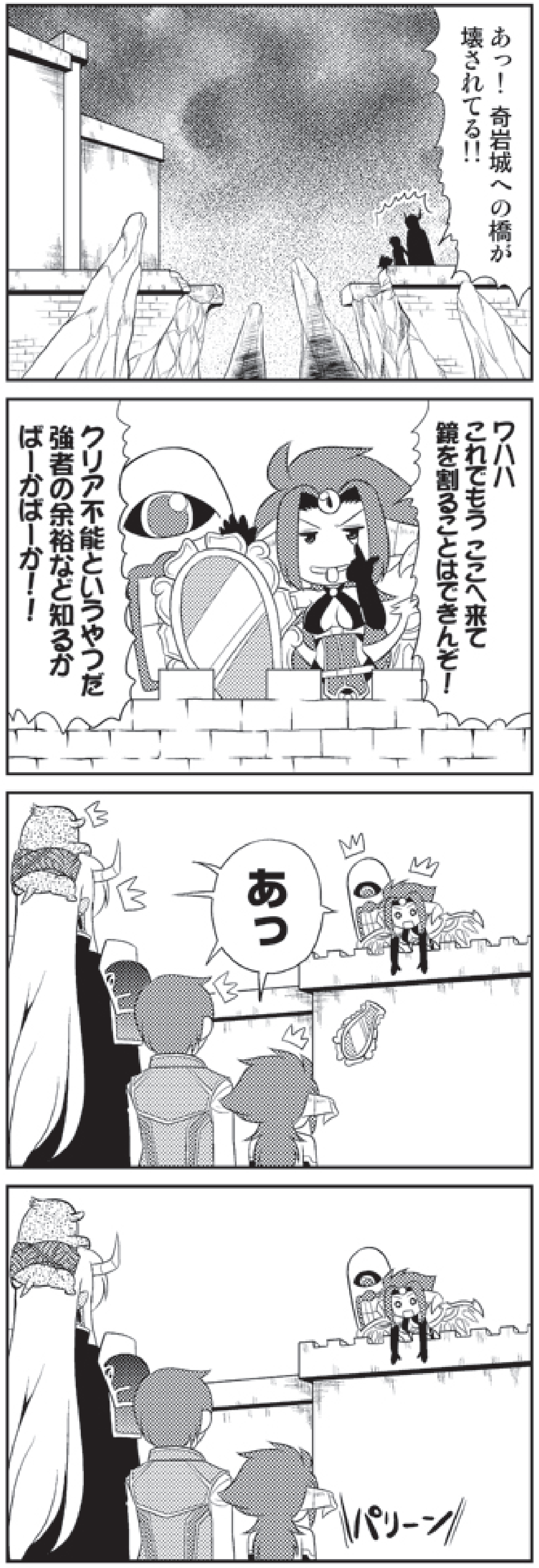
鏡と理



女神の浅知恵



本当に詰めが甘い魔王



魔王との別れ





FB ファルコムBOOKS
これを読むまで
しぬでないぞ!!
『月刊 Falcom magazine』に掲載された読み切りコミック 13 本を完全収録したコミックアンソロジーがついに登場！ 新旧ファンも納得のラインナップで贈る、ファルコム愛溢れる1冊を是非ご堪能あれ！カバーは『英雄伝説空の軌跡』コミカライズを担当した啄木鳥しんき先生の豪華描き下ろし♪
好評発売中!!
ふぁるこむコミックざんまい
収録テーマ作品
『イース』
『ブランディッシュ』
『ヴァンテージマスター』
『ぐるみん』
『ザナドゥネクスト』
『軌跡シリーズ』
価格：本体920円+税
ISBN 978-4-89610-818-7
©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら→ www.field-y.co.jp



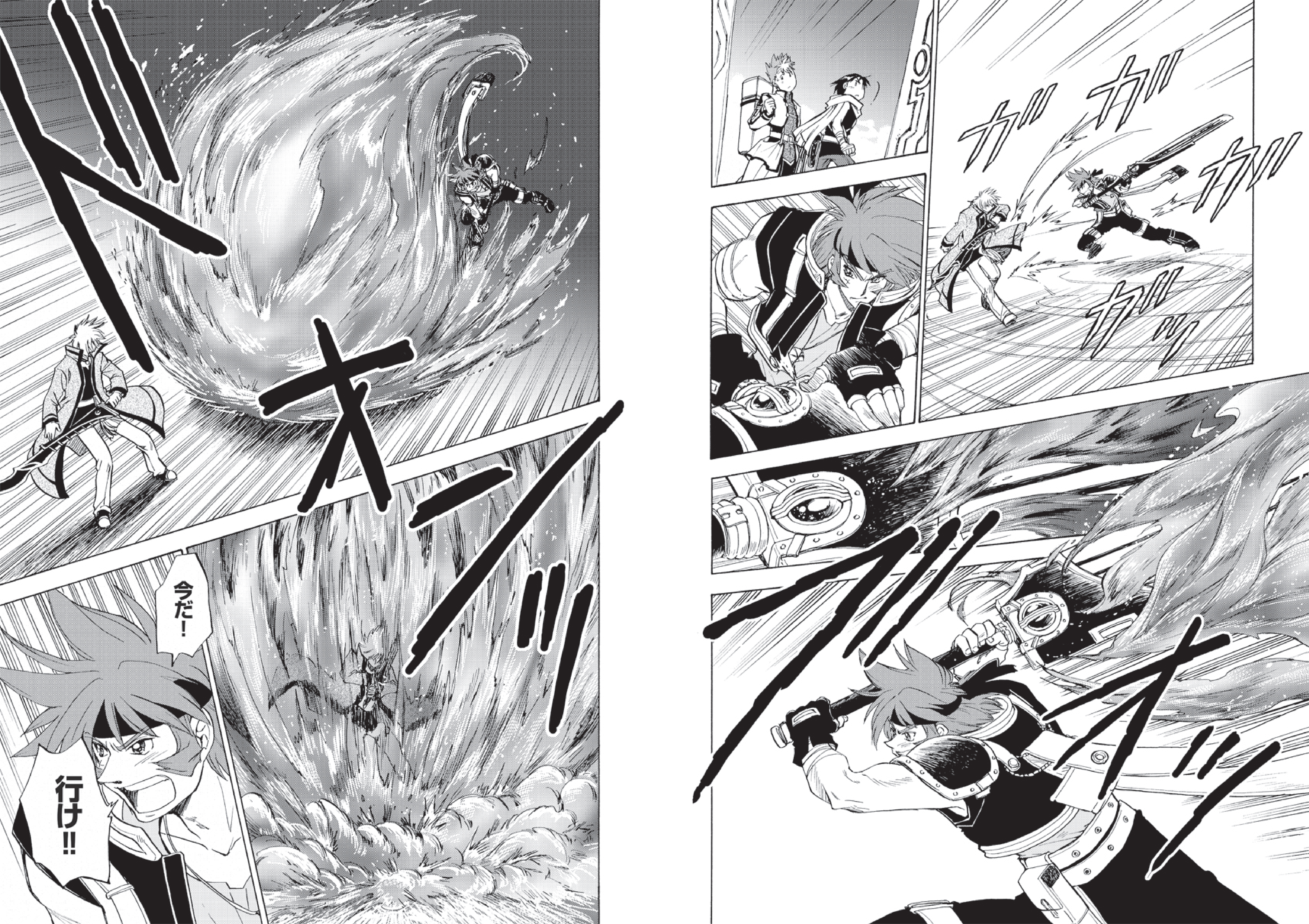
穏やかで騒がしい生活が戻ってきたファルコム学園。
徐々に英雄、戦士、さらには曲者までが還ってくるなか、
新たに「イースⅨ」のキャラクターも参戦！
まだまだ止まらない異能・新久保だいすけの筆が冴え渡る！
おまたせ！
待望の第2巻だよ！
も〜っと集まれ！
ファルコム学園②
新久保だいすけ
定価：本体 900 円+税
ISBN 978-4-8021-3213-8
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved. ©DAISUKE ARAKUBO ©2020 FIELD-Y
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイ公式HPはこちら→ www.field-y.co.jp
ファルコムブックス公式HPはこちら→ www.field-y.co.jp/falcombooks


へっ
上等だ！
今までの借り
利子をつけて
返してやるぜ！
空の軌跡SC
～絆の在り処～
漫画＝啄木鳥しんき
原作＝日本ファルコム





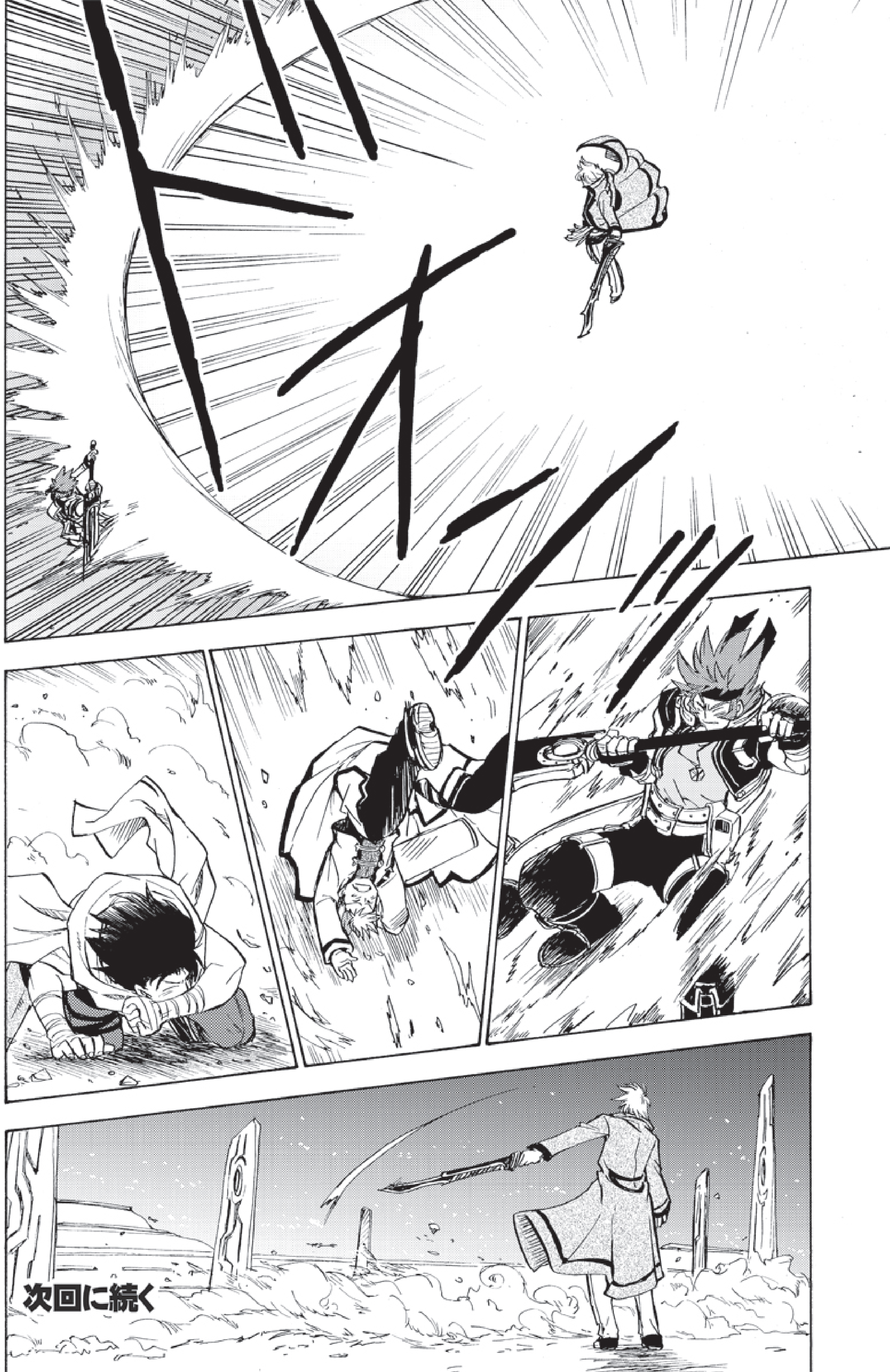

相変わらずのようだな
…それで俺の修羅を止められるとでも思ってるのか
たりめーだろ！


ガッ
ガッ
ガッ
ガッ
ドオンッ
今だ！
行け!!


おっしゃ！
おおきに
アガットさん！
あとの始末は
俺に任しとき！




リベール王国に姿を現した、
結社《身喰らう蛇》の牙・執行者たち。
その動きと示し合わせたかのような
エレボニア帝国の不穏な行動に王国は揺れる。
そして物語は、古代ゼムリア文明の精華・
リベル＝アークへと飛翔する！
リベール王国次期女王たるわたくしの名に賭けて！
英雄伝説 空の軌跡SC
〜絆の在り処〜⑥
啄木鳥しんき
定価：1000円（本体909円+税） ISBN 978-4-8021-3294-7
発行：フィールドワイ　発売：メディアパル
©Nihon Falcom Corp. All rights reserved.
©Kitsutsuki Shinki
©FIELD-Y



次回に続く

▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

タツノコプロによる『英雄伝説 閃の軌跡』シリーズのTVアニメーション『The Legend of Heroes 閃の軌跡 Northern War（ノーザン・ウォー）』制作決定！



※画像は原作のゲーム画面です

巨大軍事国家エレボニア帝国を舞台に、シリーズ4作を通して主人公リィン・シュバルツァーとその仲間たちの物語が描かれた『英雄伝説 閃の軌跡』のTVアニメーション化が決定しました。

シリーズ初のTVアニメ作品となる『The Legend of Heroes 閃の軌跡 Northern War（ノーザン・ウォー）』では、ゼムリア大陸北西部に位置するノーザンブリア自治州を舞台に、オリジナルヒロインの少女・ラヴィの視点で軌跡シリーズの物語が描かれていきます。

佐藤英一氏が監督を務め、タツノコプロが制作を手掛けるグローバルアニメーションプロジェクト『The Legend of Heroes 閃の軌跡 Northern War』は2023年初旬の放送に向けて鋭意制作中。今後の続報にご期待ください！

■『タツノコプロ』公式サイト　https://tatsunoko.co.jp/

■『軌跡シリーズ』ポータルサイト　https://www.falcom.co.jp/kiseki/

「《灰の騎神》ヴァリマール」MODEROIDシリーズで初プラキット化決定！



グッドスマイルカンパニーが手掛けるモデルキットシリーズ「MODEROID（モデロイド）」より、『英雄伝説 閃の軌跡』シリーズに登場した《灰の騎神》ヴァリマールの商品化が決定しました。

■MODEROIDについて

一部彩色済みの組み立てプラキット。色分けされたランナーパーツと彩色済みパーツにより、組み立てるだけで作品イメージの仕上がりを再現。素材はPS、ABSの硬質プラスチックを主に使用し、加工、追加塗装にも対応。スタイル・ギミックを楽しむフィギュアファンから作り込みの模型ファンまで対応したモデルキットです。

■「メカスマインパクト」新作フォトギャラリー
https://www.mechasmile.com/msi/gallery/14.html

PS Store「旧正月セール」でファルコム人気作がお買い得価格に！

2022年1月26日(水)～2022年2月9日(水)の期間、PlayStation Storeにて「旧正月セール」を開催。『閃の軌跡』シリーズのほか、ファルコム人気タイトルが30%～60%OFFで販売中です。

■ 対象タイトル



英雄伝説 閃の軌跡Ⅰ：改
-Thors Military Academy 1204-
（PS4）【30% OFF】



英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ：改
-The Erebonian Civil War-（PS4）
【30% OFF】



英雄伝説 閃の軌跡Ⅲ
スーパープライス（PS4）
【30% OFF】



東京ザナドゥeX+（PS4）
【60%OFF】



イース セルセタの樹海：改（PS4）
【30% OFF】

「イースⅧ ナピシュテムの匣」の新商品が通販に登場！



定番アイテムの缶バッジ・アクリルキーホルダーはもちろん、キュートなグラフアート描き起こしイラストを使用した商品も必見です。全国のアニメショップ（一部店舗･オンライン除く）でご予約受付中！

■ eeo store公式通販サイト】
https://eeo.today/store/101/title/search/product?parent_title_id=138





1月の 新／衣装替えキャラクターをチェック！



バレンタイン・エリゼ

エリゼがバレンタインに選んだのは全身真紅のコーディネート。普段は控えめな装いが多いエリゼだが、衣装替えをするときはちょっと冒険したくなるようだ。

THE LEGEND OF HEROES 暁の軌跡

アカツキノキセキ

毎月魅力的な新キャラクターや衣装替えキャラクターが大注目の『英雄伝説 暁の軌跡』。
１月はメインストーリーが更新！　さらにエリゼがバレンタインの装いで登場！

『英雄伝説 暁の軌跡』公式ホームページ
http://akatuki.ujj.co.jp/
公式ツイッター
https://twitter.com/akatsuki_ujj

メインストーリー終章第４弾「忘れ得ぬ過去／前篇」実装！

巨大飛行船ヨルムンガルドの脅威を免れ、
数日ぶりに穏やかな朝を迎えた公都アーデント。
公宮では国防の方針がまとまり、意見交換の場が設けられていた。
そこで新たに浮上した問題とは——。









※画像は開発中のものです。　※ 上記のイベントは状況により内容の変更を行う場合があります。

魔法少女まじかる☆アリサ

第1話『変身！　まじかる☆アリサ！』

登場キャラクター

アリサ・ラインフォルト（まじかる☆アリサ）
モナくん
○
マキアス・レーグニッツ
エリオット・クレイグ
エリゼ・シュバルツァー
クロウ・アームブラスト
トワ・ハーシェル
シャロン・クルーガー
○
リィン・シュバルツァー（魔界皇子リィン）
怪　物
○
その他

□ アバンタイトル――

フワッと揺れる金色の髪――。

少女の声「はあああああっ！」

空に飛び立ったピンク色の服を着た魔法少女――まじかる☆アリサが、鮮やかな飛び蹴りを放つ。
その足から魔法の光が迸り、

魔界皇子「くううう……っ！」

ガードしていた両腕に蹴りを食らったのは黒衣の少年――魔界皇子リィンである。
アリサの隣に飛んできた謎の妖精、モナ君が、

モナ「今だモナ！」

まじかる☆アリサ「現れなさい！　愛の弓、トゥインクル・スター！」

掌に光が集まり、その手に出現する弓、トゥインクルスター。

まじかる☆アリサ「――ついに追い詰めたわよ、魔界皇子！」

手にした愛弓、トゥインクル・スターを、片膝を突いた皇子に向けて構える。

魔界皇子「フッ、さすがだな……。我が宿敵、まじかる☆アリサ！」

立ち上がり、宙に浮かぶと、余裕の表情でアリサを見下ろす皇子。
と、目元のゴーグルにピシッと亀裂が走り、僅かにその瞳が露わになる。

まじかる☆アリサ「！　……」

一瞬、弓を引くアリサの手が止まる。

モナ「アリサ、どうしたモナ⁉　今がチャンスモナ！」

まじかる☆アリサ「……え、ええ、分かってるわ！」

アリサ、ハッとなって、
弓を引きしぼり、狙いを定め、愛の力を一点に集中させるアリサ。

まじかる☆アリサ「はあああああっ！」

皇子は両腕を広げて身構え、

魔界皇子「さあ、来い！　今宵訪れた常闇の舞台の幕を引くために！　俺の右腕に潜む『魔』――見事に打ち破ってみせるがいい！」

右手に嵌まった黒い宝石から、右腕全体にオーラが吹き出す。
アリサ、キッと皇子を見やると、

まじかる☆アリサ「あなたにお届け！　愛と希望の流れ星！」

グッと引き絞った弦を解き放ち、

まじかる☆アリサ「まじかる☆アリサ！　ラブ・シューティングスター‼」

愛の力を込めた虹色の矢を撃った。
皇子、右手に収束させた黒いオーラで矢を受け止めるが、

魔界皇子「ぐ……！　ぐおわあああああっ‼」

耐えきれず、ハート型の光に包まれて大爆発！

まじかる☆アリサ「……！」

モナ「やったモナ⁉」

魔界皇子の声「……フッ　だが――」

爆煙が晴れると、傷つきながらも宙に浮いた皇子の姿が露わになる。

魔界皇子「フハハハハっ！　足りぬ、足りぬわ！　その程度か、まじかる☆アリサよ‼」

まじかる☆アリサ「く……！」

皇子のゴーグルが破壊され、露わになったその素顔は――。

まじかる☆アリサ「（目を瞠り）うそ……！」

そこに――ピピピと目覚し時計の音が忍び込んで来て。

□ ドサッとベッドから落ちるアリサ

アリサ「う、う～ん……」

窓の外から聞こえる雀の囀り。パジャマ姿のアリサが、ベッドから落ちて床で鳴り響く目覚ましを手に取る。
時計は9時を指していて、

アリサ「ええっ⁉　もうこんな時間っ！」

慌てて飛び起きるアリサ。

□ アリサの家・リビング

私服に着替えたアリサが飛び込んでくると、メイドのシャロンが頭を下げる。

シャロン「おはようございます。アリサお嬢様」

アリサ「もうっ、シャロン！　どうして起こしてくれないのよっ⁉」

赤い宝石付きのペンダントを上着にしまいつつ、シャロンに歩み寄るアリサ。

シャロン「春休みですし、ごゆっくりおやすみになられてはと」

そう言いつつ、コップにアイスティーを注ぐシャロン。シロップも多め。

アリサ「だ・か・ら！　今日からアルバイトだって言ったでしょ」

シャロン「あら、イリーナ様は、お認めになられてないようですが？」

アリサ「母様は関係ないわ。もう子供じゃないんだし、自分のお金は、自分で稼いでみせるんだから！」

シャロン「そうおっしゃる割には、ベッドから派手に落ちた音が聞こえたような……」

アリサ「お、落ちてないしっ！」

シャロン、クスッと笑いつつ、

シャロン「どうぞ、ガムシロップたっぷりのアイス



ティーですわ」

アリサ、受け取ったアイスティーのコップを一気に飲み干すと、

アリサ「もう……。みんな子供扱いして。じゃあ、行ってきますっ！」

シャロン「いってらっしゃいませ、お嬢様」

勢いよく飛び出して行くアリサ。

□ オープニング

□ 商店街の通り

――を駆けていくアリサ。

アリサ「（M）急がなきゃ！　初日から遅刻なんてありえないわ！」

ポケットから顔を出して、揺れているモナくんキーホルダー。

アリサ「（M）それにしても……何であんな夢……」

× × ×

フラッシュ――戦うまじかる☆アリサの姿。

アリサ「（M）高二にもなって、あんな恥ずかしい格好で、魔法少女だなんて……」

フラッシュ――対峙する魔界皇子。

アリサ「（M）しかも、何なのよ、あの変態みたいな男はっ！」

フラッシュ――露わになる魔界皇子の顔が僅かに思い起こされて。

アリサ「（M）でも、あの顔……どこかで見たことあるような……」

× × ×

と、ハッとなるアリサ。

アリサ「――あ！」

目の前の曲がり角から、黒髪の少年――リィンが歩いて来たのだ。

リィン「え……！」

アリサ「きゃあああっ！」

止まりきれず、真正面からリィンにぶつかってしまうアリサ。

× × ×

その瞬間――アリサの胸の中で、ボウッと赤く光るペンダントの宝石。

× × ×

アリサ「え……！」

同じく――リィンの胸ポケットで光る黒い宝石。

× × ×

リィン「う……！」

二人の間に、一瞬小さく光が生まれるが、

× × ×

アリサ「あああっ！」

そのまま派手に倒れ込んでしまい――

――。

アリサ「……あいたたた」
　倒れて蹲っているアリサ。
アリサ「(M)今のって……いったい……」
リィンの声「だ、大丈夫か？」
アリサ「え？　ええ……」
　アリサが顔を上げると――。
アリサ「！」
　なんと、下敷きになったリィンの顔が、アリサの胸に埋もれていたのだった。
アリサ「な、な、な……っ！　この、へ、変態っ！」
　思わず立ち上がり手を振り上げるアリサ。
リィン「ち、違う！　これは……！」
少女の声「リィン兄様！」
アリサ「え⁉」
　振り上げた手を止めるアリサ。
リィン「エリゼ……！」
　現れた黒髪の少女、エリゼが、アリサに詰め寄ってきて、
エリゼ「兄様を変態呼ばわりとは、聞き捨てなりませんわ！　あなたの方から、倒れかかったのでしょう！」
アリサ「そ、そんなっ⁉」
エリゼ「この目でしかと見ましたわ！　悪い虫が付かないよう、私がお守りします！」
　バッと両手を広げて立ちはだかるエリゼ。
アリサ「なっ！　誰が悪い虫ですってー！」
　リィン、エリゼを止めて、
リィン「やめるんだ、エリゼ。前をよく見てなかった俺も悪いんだから……」
エリゼ「ですが……」
　アリサ、リィンの顔を見てハッとなり、
アリサ「あなた……そういえば、同じ学年の……？」
リィン「ああ……。リィン・シュバルツァーだ。君は、確か……」
アリサ「アリサ――。アリサ・ラインフォルトよ」
リィン「その、アリサ……。本当にすまなかった！」
　バッと頭を下げるリィン。
アリサ「あ、い、いえ、私もちょっと考えごとをしてたわけだし、何て言うかその、悪かったわ……」
リィン「い、いや、俺の方こそ……助けるためとはいえ……あんなことになるなんて……すまない！」
アリサ「なっ！」
　暫し赤面して、俯くアリサ。
アリサ「(M)なによ……。私の下敷きになったのは、怪我させないためってわけ？」

　二人の間に暫し漂う気まずい空気。
　その間にズイッと、エリゼが割り込んで、
エリゼ「私、妹のエリゼ・シュバルツァーと申します。この春から、兄と同じ高校に通いますので」
アリサ「そ、そうなの……。後輩になるんだ。よろしくね。エリゼちゃん」
　エリゼ、ムッと少し不満そうに、
エリゼ「『ちゃん』づけは、ご遠慮いただけます？」
アリサ「(苦笑)あ、あはは……」
リィン「俺達は、ちょうど朝食に出て来た所なんだ。アリサはどこに？」
　アリサ、ハッとなり、スマホを見て、
アリサ「ああっ！　いけないっ！　遅刻だわーっ！」

□サブタイトル

□マクモナルド・全景
　『ようこそモナ！』と吹き出しつきの黄色いマスコット、モナ君の看板が掲げられたハンバーガーチェーン店である。
アリサの声「いらっしゃいませ……！」

□同・店内
　店員の制服を着たアリサが、ぺこりと来店したお客にお辞儀する。
アリサ「ご注文は？　あ、はい。ええと……セットでしたら、たぶん、こちらのポテトとドリンク付きが、お得で……」
　メニューを指さしつつ、たどたどしく接客するアリサ。
トワ「アリサちゃん、注文は私に任せてっ。こっちを、テーブルのお客さんに届けてあげてね」
　と、先輩店員のトワが助け船を出し、セットなどが載ったトレーを手渡す。
アリサ「あ、すみません、トワ先輩」
　×　×　×
　アリサがトレーを手に、焦りながらパタパタとテーブル席へ。
アリサ「お待たせしました！　ご注文のモナバーガーセット三つに、パンケーキセット……」
　と、言いかけて、固まるアリサ。
マキアス「なんだ、君か？　こんな所で会うとは奇遇だな」
　キラリとメガネを光らせる、堅物そうな同級生のマキアス。学生服を着用している。
アリサ「マ、マキアス！」
エリオット「あははっ。春休みにアルバイトなんて、頑

張ってるんだね」
　同じく同級生のエリオットが微笑む。
アリサ「エリオット！」
　さらに、リィンとエリゼもいて、
リィン「(気まずそうに)や、やあ、アリサ」
エリゼ「また現れましたわね、悪い虫！」
　ビシッとアリサを指さすエリゼ。
アリサ「な、な、何であなた達までいるのよっ！」
　ワナワナ震えるアリサに、
エリオット「リィンが新入生になる妹を、紹介してくれるって言うから」
マキアス「そもそも、ここは一年の頃から、僕らのたまり場なのだが」
アリサ「えええっ！」
　驚くアリサ。
アリサ「(M)うかつだったわ……。クラスメートが来るお店だったなんて……」
エリオット「リィンとアリサって、知り合いだったんだ？　意外だね」
リィン「あ、ああ、ちょっとした縁でな……」
　苦笑するリィン。
エリゼ「兄様、この方に縁なんて言葉は似合いませんわ。強いて言うなら腐れ縁です」
アリサ「(カチンと)あーら、お客様、こちらがご注文のパンケーキセットでございます」
　ガシャンと乱暴にエリゼの前にパンケーキセットを置くアリサ。
エリオット「それ、僕のだよ」
アリサ「あんたのかいっ！」
　マキアス、メガネをずり上げ、
マキアス「ところで、風紀委員として、一応聞いておくが、学校にバイトの許可は取ったんだろうな？」
アリサ「ええ、それは当然よ」
エリオット「あれ？　でもアリサの家って、お小遣いに困りそうには見えないけど？」
マキアス「確かに、ラインフォルト財閥といえば、この国屈指の企業グループ。その跡取り娘の君が、アルバイトとは……」
リィン「そうだったのか？」
エリゼ「人は見かけによりませんね」
　アリサ、汗ジトで後ずさり、
アリサ「そ、それとこれとは、関係ないでしょ！　とにかく、ごゆっくりどうぞーっ！」
　慌てて去って行った。
マキアス「何なんだ、アレは……」
エリオット「トイレじゃないの」
　パクとパンケーキを頬張るエリオット。

□　店の前を人々が行き交う（時間経過）

　自動ドアのチャイムが鳴り、店内に

客が入ってくる。
トワ「いらっしゃいませっ」
　客の男、カウンターになれなれしく肘を突き、
男「よっ、トワ。いつものセットで頼むぜ」
　む、と頬を膨らませるトワ。
トワ「クロウ君。私だからいいけど、新人さんに、そんな注文しちゃいけないんだからね」
　そう言われたのは、私服にバンダナ姿のクロウ。
　笑いながら頭を掻きつつ、
クロウ「いやあ、わりぃわりぃ。トワが相手だと、ついな」
　トワ、レジを操作すると、
トワ「もうっ。フィッシュバーガーセット。７６０ミラだよ」
　クロウ、財布を取り出すと、
クロウ「おっ……？　やべ、ちょっと足りねぇな……まけてくれない？」
トワ「(キリッと)まけられません」
クロウ「ちぇっ、つめてーなー」
　と、テーブル席のリィン達に気付いて、
クロウ「よお、リィンじゃねーか。な、１５０ミラ貸してくれない？」
　リィン、その声に振り向いて、
リィン「クロウ先輩。こないだブレードで負けたからって、50ミラ貸したばかりじゃないですか……」
クロウ「そうだったか？　ハハッ。三年になったら耳揃えて返すから、な、頼むぜ」
リィン「春休みになったら返すって、言ってませんでした？」
クロウ「今度の約束は守る！　絶対守るから！　なっ、この通りっ！」
　必死に手を合わせて頼むクロウに、
トワ「あのね。先輩が後輩にたかるのは、いけないんだからね。リィンくんも甘やかしちゃだめだよ」
　ジト目で睨むトワ。
リィン「すみません、トワ会長……」
クロウ「へえへえ。生徒会長様に言われちゃ、仕方ねえ。じゃ、単品で頼むぜ」
　苦笑しながらお金を払うクロウ。
トワ「はーい。フィッシュバーガー単品入りま～す」
　営業スマイルで受け取るトワ。
　そこに——
アリサ「店内清掃終わりましたー」
　箒とちりとりを手にやってくるアリサ。
トワ「うん。じゃあ、アリサちゃんは、お昼休み

アリサ　……に行ってきてね」

アリサ　「はい！」
クロウ　「へえ。あんたが新人さんか？」
　アリサを見やるクロウ。
アリサ　「え？」
トワ　「同じクラスのクロウくんだよ」
アリサ　「あ、二年のアリサ・ラインフォルトです」
クロウ　「そっか。ま、よろしくな」
　そう言い、アリサとすれ違っていくクロウ、ふと立ち止まる。
　アリサの胸元で、微かに、赤いペンダントが輝くように見えたのだ。
クロウ　「……ん？」
　振り返って、アリサの胸元を目で追うクロウだったが、ドスッと軽く肘打ちされ、
トワ　「なーに見てるのかなあ、クロウ君？」
　トレイを持ってきたトワがジト目で睨む。
クロウ　「ははっ！　な、何も見てねえって！」
　慌てて目を逸らし、フィッシュバーガーのトレイを受け取った。

□ 同・バックヤードの休憩室

　大きく伸びをするアリサ。
アリサ　「ううう〜ん……はああ……」
　と、グーッとお腹が鳴る。
アリサ　「（お腹を押さえ）……ううっ。朝ご飯、食べてなかったのよね……」
　その時、ドアが開いて、
トワ　「おつかれさま〜！　はい、お昼ご飯だよ」
　ハンバーガーセットを持って来るトワ。
アリサ　「わあ！　ありがとうございます！」
　アリサ、微笑んで、トワに頭を下げる。
トワ　「初日で慣れないことも多いと思うけど、よく頑張ってるね。感心感心」
アリサ　「そんな……。まだまだです。朝は遅刻しそうになるし、注文だって、まともに取れないし……」
　ハンバーガーの包みを広げつつ、
アリサ　「自分でお金を稼ぐのって、こんなに大変なことだったんですね……」
　溜息をつき、ハンバーガーを囓るアリサ。
アリサ　「！　おいしい……！」
　途端に笑顔になって頬張る。
アリサ　「マクモのバーガー、前から一度、食べてみたかったんです！」
トワ　「ええっ⁉　マクモ食べたことないの⁉　それは、女子高生としてありえないよ！」
アリサ　「ええ……。その……お店に入ったのも、面接の時が初めてで……」
トワ　「ふうん……。アルバイトを始めたのって、何か事情があるのかな？」
アリサ　「……大したことじゃないんですけど。どうしても、行きたい場所があって」

□ アリサの回想――（10年前）

　――6歳くらいの幼いアリサが、山道を泣きながら歩いている。
アリサの声　「小さい頃、家族で旅行に行った山で、道に迷ってしまって……」
　――アリサの前に現れた同い年くらいの少年がその手を取り、優しく微笑む。（顔は見せない）
アリサの声　「そんな私を、親切に助けてくれて、麓まで送ってくれた男の子がいたんです……」
　――お礼に自分の髪留めを渡すアリサ。
　すると、少年は赤い宝石をお返しに手渡してくれた。
アリサの声　「その子の名前も顔も、今では、憶えてないけど……」

□ 回想戻って――

アリサ　「いつか自分の力でお金を貯めて、会いに行こうって、ずっと思ってたんです」
トワ　「へえー。じゃあその男の子が、アリサちゃんの初恋の人なんだ？」
アリサ　「え⁉　そ、そうなのかな……って、いや、そんなこと全然考えたことなくて！」
　赤面して俯くアリサだったが、
アリサ　「でも……。その子にもらった宝石は、ペンダントにして、今でも大事に身につけてるんですよ」
トワ　「ほんとに⁉　見せて見せてっ！」
　アリサ、胸元に手を入れて、
アリサ　「ええ……これです」
　赤い宝石のついたペンダントを、取り出して見せる。
トワ　「わあ！　綺麗だね！」
　トワ、少し驚きの顔になって、
トワ　「あれ？　光ってる？」
アリサ　「え⁉」
　言われて胸元の宝石を見ると、微かに赤く光っている宝石。
アリサ　「ほんとだ……！」
　鼓動を打つように点滅する赤い宝石。

□ 同・店内の客席

　クロウ達と雑談を続けているリィン。
エリゼ　「それで、兄様ったら、私が引越してくると聞いて、徹夜して部屋を片付けて下さったんです」

クロウ「へえ、いいとこあるじゃねえか」

リィン「いや、散らかってたら、何を言われるか分からないし……」

　その時、突如、ドクンとリィンの胸の鼓動が高鳴る。

リィン「ぐっ……！」

　胸を押さえて俯くリィン。

エリゼ「どうなさいました、リィン兄様？」

クロウ「おい、リィン？」

　リィン、ゆっくりと顔を上げると、

リィン「い、いや、何でもない……。ちょっと待っててくれ」

　そう言い、席を立つリィン。

マキアス「大丈夫なのか？」

エリオット「トイレじゃないの」

　ズズッとジュースを飲むエリオット。

クロウ「（リィンを見やり）……」

□ 同・店の裏手の路地

リィン「ぐっ……はぁっはぁっはぁっ……」

　裏口から、リィンが胸を押さえながら出てくる。

リィン「な、何なんだ、この感じ……」

　押さえた胸から、黒いオーラが漏れ出してきて、

リィン「うぐっ……！」

　たまらず、胸ポケットから右手で何かを取り出す。

リィン「！」

　それは、ダイヤのような形の宝石。

　黒いオーラを放っていた。

　× × ×

　回想――部屋の片付けをするリィンが、引き出しの奥から宝石を見つける。

　首を傾げ、胸ポケットに入れるリィン。

　× × ×

リィン「（M）部屋からたまたま出てきた……宝石……!?」

　と、右手の中でブワッと宝石の黒いオーラがさらに溢れ出す。

リィン「ぐううっ……！」

　オーラに右手を包まれて、身もだえるリィン。

リィン「ぐわあああああああっ‼」

　宝石は不気味に輝きながら、リィンの右手の甲に嵌まっていく。

リィン「あああああーーーっ……！」

　次の瞬間、リィンの全身が黒いオーラに包まれていき――。

　× × ×

　休憩室――

アリサ「何、この声……!?」

　一人でペンダントの赤い宝石を見つめていたアリサが、ハッと気付いて。

〈中CM〉

□ 店の裏手の路地

エリゼが裏口を開けて、

エリゼ　「リィン兄様？　どこですか？」

辺りをキョロキョロ見回す。
と、ガラッとゴミ箱の崩れる音がして、ハッと振り向くエリゼ。

エリゼ　「兄様……⁉」

男の声　「はぁっはぁっはぁっ……」

だが、そこに蹲っていたのは——全身黒づくめで、ゴーグル、ヘッドホンを装着した謎の男。

魔界皇子　「足りぬ……疼きが足りぬ……」

エリゼ　「……！」

魔界皇子　「我が両手を満たす、皇子の印が足りぬっ……！」

厨二な言葉を吐きながらガバッと立ち上がる男。

エリゼ　「きゃあああ……！」

ドン引きするエリゼ。

アリサ　「……どうしたの⁉」

そこに、アリサが駆け付ける。

エリゼ　「へ、へ、変態ですっ！」

涙ながらにアリサに抱きつくエリゼ。

アリサ　「え⁉」

アリサの前で、両手を翳す皇子。
左手には何も嵌まっておらず、右手には黒い宝石が嵌まっている。

魔界皇子　「我は魔界のプリンス、魔界皇子！　人間よ！　我が左手を埋める、皇子の印を差し出すがいいっ！」

アリサ　「た、確かに変態だわっ……！」

だが、皇子、全く気にも留めず、

魔界皇子　「フハハハハ！　魔界皇子の名のもとに、裁きの断罪を下す時が来たれり！」

右手を振りかざすと、黒いオーラが放たれる。

アリサとエリゼ　「きゃあぁっ！」

吹っ飛ばされてしまう二人。

エリゼ　「兄……様……」

気絶するエリゼ。

アリサ　「ううっ……」

意識朦朧となるアリサ。
皇子、無言で歩き去って行く。

□ 同・店内

——に悲鳴が聞こえてくる。

エリオット　「ん……⁉」

外を見やるエリオット。

×　×　×

魔界皇子　「わはははっ！」

叫んだ皇子が、右手から黒いオーラを放つと、商店街の看板や八百屋の



果物などを次々に吹っ飛ばしていく。

魔界皇子　「愚かなり、人間共よ。我が手の疼きを癒やす印、差し出すがいい！」

悲鳴を上げて逃げ惑う通行人達。

店から飛び出して来るクロウと、マキアス達。

クロウ　「おいおい、真っ昼間から露出多すぎじゃねえか？」

マキアス　「なんなんだ、君は⁉　変態なのかっ⁉」

エリオット　「うん、変態だね」

皇子、動じず、マキアスを睨むと、

魔界皇子　「ククク。ちょうどいい。その眼鏡、我が闇の眷属としていただくぞ！」

マキアス　「なにっ⁉」

皇子が右手から放ったオーラが、マキアスの眼鏡を包む！

すると、眼鏡は宙に浮かび上がり、

マキアス　「メガネ！　僕のメガネがっ⁉」

眼鏡を探すマキアスの前で、見る見る巨大化していき、メガネの怪物になった！

魔界皇子　「ゆけ！　この世界を恐怖によって服従させるのだ！」

怪物　「メガネール‼」

咆吼を上げると、通行人たちに光線を放つ怪物。

通行人たち　「（悲鳴）きゃああっ！」

喰らった通行人達は、みんなマキアスと同じ型の眼鏡をかけてしまい、

通行人A　「な、何、この眼鏡⁉　外れない！」

通行人B　「ダサい！　ダサすぎるわっ！」

マキアス、目をシパシパさせつつ、

マキアス　「くそおっ！　見えないが、分かるぞ！　僕の眼鏡をバカにするなああっ！」

エリオット　「あれは僕もちょっと……」

□店裏の路地

気を失っていたアリサの胸のペンダントが淡く点滅する。

アリサ　「ううっ……」

隣で倒れているエリゼに気付くアリサ。

アリサ　「エリゼちゃん……⁉」

と――表通りから悲鳴が聞こえてきて、

アリサ　「！」

振り返るアリサ。

アリサ　「いったい何が……⁉」

さらに、ペンダントの光が増した時である。

声　「モナモナ～ッ！」

突如、上空から猛スピードで降ってくる黄色く輝く光の塊。

アリサ　「えっ⁉」

光の塊は、アリサの制服ポケットから覗くマクモナルドのマスコット、モナ君に吸い込まれていき。

次の瞬間――。

モナ　「モナ！　やっと会えたモナーっ！」

ポンッとぬいぐるみサイズに大きくなって、ポケットから飛び出した！

アリサ　「しゃ、しゃ、しゃべったーーっ⁉」

モナ　「詳しい話は後モナ！　魔界皇子にこの世界が狙われてるモナ！」

驚くアリサの前で浮遊するモナ。

アリサ　「はあっ⁉」

モナ　「君が持つ魔界皇子の印の欠片を、奴は探してるモナ！」

と、アリサの胸のペンダントを指さす。

モナ　「皇子の印の欠片があいつの元に揃ったら、大変なことになるモナ……！」

ガクガク震えて怯えるモナ君。

アリサ　「ちょ、ちょっと待って！　魔界皇子とか、何とかの欠片とか、いきなり言われても意味わかんないし！　あなた、何なのよ⁉」

モナ　「モナは……モナ国王だモナ……！」

アリサ　「はあっ⁉　アイスか何か⁉」

モナ　「いいから行くモナっ！」

ドンッとアリサの背中を強引に押すモナ。

アリサ　「きゃっ！」

□商店街の通り

トワ　「みんな、こっちだよ！　早く逃げて！」

トワが避難誘導するが、大混乱の商店街。

怪物　「メガネール！」

放った光線がトワを直撃！

トワ　「ひゃああっ！」

どこかで見たような丸眼鏡になるトワ。

トワ　「なんで私だけ、丸い眼鏡なのっ⁉」

クロウ　「トワ！」

トワの手を引き、店内に逃げるクロウ。

魔界皇子　「ふはははは！」

×　×　×

路地の影から――その様子を見て愕然となるアリサ。

アリサ　「な、何なのよ、これ……！」

マクモナルドが、メガネのモンスターに襲われ、破壊されそうになっている。

モナ　「キミしかいないモナ！　さあ！　この変身

アイテムARCUSで、伝説の魔法少女に変身するモナ！」
　と、金属製のデバイスを手渡すモナ。
アリサ「ま、魔法少女⁉　私がっ⁉」
モナ「大丈夫モナ！　自分を信じるモナ！」
アリサ「そんな……！」
　×　×　×
　フラッシュ——朝の夢より。
　魔界皇子と戦うまじかる☆アリサの姿。
　×　×　×
アリサ「（M）まさか……あの夢……⁉」
　アリサ、グッとARCUSを手にする。
アリサ「（M）あれは……夢じゃなくて、本当のことだったっていうの……⁉」
　その瞬間——一際強く輝く胸の赤い宝石。
　宝石はARCUSの中央にはめ込まれて一体化し、アリサの体が眩い光に包まれる！
魔界皇子「（気付いて）む、何だ⁉」
　その光に目を覆う皇子。
アリサ「あああっ……！」
　ARCUSの光に包まれ、空中に飛び出し、変身を始めるアリサ。

　——変身BANK。
　目を閉じ、ARCUSと融合した宝石を胸に当て、神々しい光に包まれるアリサ。
まじかる☆アリサ「あなたに届け！　愛と希望と魔法の戦士！」
　ピンク色の服を来た、魔法少女まじかる☆アリサに変身！
まじかる☆アリサ「魔法少女まじかる☆アリサ！」
　スタッと着地し、可愛く決めポーズした。
まじかる☆アリサ「って、えええええっ⁉」
　自分の姿を見て、驚くアリサ。
まじかる☆アリサ「な、な、私、なんて恥ずかしい格好してんのよっ⁉」
　隣に飛んできたモナ君が、
モナ「危ないモナ‼」
まじかる☆アリサ「え⁉」
怪物「メガネール‼」
　いきなり、眼鏡を弾丸のように連射してくる怪物。
まじかる☆アリサ「きゃっ！」
　慌てて避けると、足が光に包まれ、空高くジャンプ！
まじかる☆アリサ「って、と、飛んだーーっ！」
　宙を舞いながら驚くアリサ。

モナ「魔法少女の力モナ！　このまま、一気に蹴りを喰らわせるモナ！」
まじかる☆アリサ「け、蹴りって⁉　こうっ？」
　蹴りの構えを取ると、再び足が光に包まれ、急降下！
怪物「（怯んで）メガネール⁉」
　だが、狙いを外して怪物の目前に落下。
　アスファルトが激しく弾け飛ぶ。
まじかる☆アリサ「す、凄い力……！」
　驚きの顔で自分の足を見やる。
魔界皇子「ほほう……。貴様、人の身で、この魔界皇子に抗うつもりか？」
　アリサの前に立ちはだかる皇子。
まじかる☆アリサ「あなたは……！」
モナ「魔界皇子！　大人しく、まじかる☆アリサの軍門に降るモナ！」
まじかる☆アリサ「ちょ、ちょっと、煽らないでよ！」
魔界皇子「ククク！　よかろう。ならば、我が力を……。この世を常闇に包む魔界皇子の力の片鱗を見せてやろう！」
　ブワッと右手から黒いオーラを放つ皇子。
まじかる☆アリサ「きゃあっ⁉」
　オーラを食らい、吹っ飛ばされるアリサ。

　×　×　×
　店内から見ているマキアスや、トワたちがそれに気付いて、
エリオット「あれは……！」
トワ「女の子が、戦ってる……⁉」
マキアス「見えない！　見えないぞっ！」
クロウ「……！」
　×　×　×
怪物「メガネール！」
　さらに、アリサに突進してくる怪物。
モナ「来るモナ！」
まじかる☆アリサ「っ！」
　咄嗟に地面を蹴り、キックを繰り出すが、
まじかる☆アリサ「ああっ！」
　勢い余って壁に激突してしまう。
　その背後に回り込む怪物。
怪物「メガネール！」
まじかる☆アリサ「くっ……！」
　振り返り、怪物のパンチや蹴りを、必死に両腕でガードして耐えるが、ついに喰らって、
まじかる☆アリサ「きゃあああっ！」
　道路に叩き付けられるアリサ。
モナ「しっかりモナっ！」
まじかる☆アリサ「はぁはぁ……やっぱり、だめよ……。私な



んかに……魔法少女だなんて……」
　傷つき、項垂れるアリサ。

魔界皇子「ククク。口ほどにもない。とどめだ！」

怪物「メガネール！」

　アリサに突進する怪物。
　その時である——。

トワの声「頑張ってっ！」

まじかる☆アリサ「！」

　店のドアから身を乗り出したトワやエリオット達が、

エリオット「負けるなっ！」

マキアス「よく分からんが、眼鏡を頼む！」

クロウ「かましてやれっ！」

　一斉にアリサに声援を送る。

まじかる☆アリサ「みんな……！」

　その声に、顔を上げるアリサ。

まじかる☆アリサ「そうよ……みんなの……」

×　×　×

　フラッシュ——笑顔で歓談するリィンやマキアス、エリゼたちの姿。
　——笑顔で働くトワの姿。

×　×　×

　必死に立ち上がるアリサ。

まじかる☆アリサ「みんなの大事な場所を……守らなきゃっ！」

　ブワッと魔法の光に体が包まれ、その光を纏った拳を、目前に迫った怪物にカウンターで喰らわせた。

怪物「メガネール!?」

　ドゴオオンと吹っ飛んで電柱に叩きつけられる怪物。

魔界皇子「なにっ!?」

まじかる☆アリサ「（手を見て）あたった……！」

　刹那——ARCUSに魔法の光が集まり、カッと強い虹色の閃光を放つと、アリサの手に出現する大きな弓。

まじかる☆アリサ「これは!?」

モナ「伝説の愛の弓、トゥインクル・スター！　みんなを思うアリサの心に、応えてくれたモナ！」

まじかる☆アリサ「愛の弓……トゥインクル・スター……！」

　キッと決意の顔になると、トゥインクル・スターを構える。

怪物「メガネール……！」

　突っ込んでくる怪物に狙いを定め、弓を引き絞るアリサ。

まじかる☆アリサ「はあああああっ！」

　愛の力が矢の先に集中して——。

まじかる☆アリサ「あなたにお届け！　愛と希望の流れ星！」

　グッと引き絞った弦を解き放ち、

まじかる☆アリサ「まじかる☆アリサ！　ラブ・シューティングスター‼」

　愛の力を込めた虹色の矢を撃った。

虹色の矢は怪物の体を貫いて、ハート型の光で包み込む。

怪物「メガネールっ‼」

断末魔と共に浄化される怪物。

モナ「やったモナ！」

まじかる☆アリサ「すごい……！」

自分の力に驚くアリサ。
元に戻ったマキアスの眼鏡が、アリサの手元に落ちてくる。

魔界皇子「ぬううっ！　まじかる☆アリサ……。その名、しかと我が記憶に刻みつけた。いずれ、常闇の世界へ葬ってくれるわっ！」

そう言うと、黒いオーラに包まれて姿を消す皇子。
辺りの破壊された建物が元に戻っていき、

トワ「（眼鏡が消え）あっ！」

人々の眼鏡も消えていく。
エリオット、クロウ達が駆け寄ってきて、

クロウ「やるじゃねえか！」

エリオット「ねえねえ、君、名前は⁉」

まじかる☆アリサ「な、名乗るほどの者じゃありません」

汗ジトで引くアリサ。

マキアス「メガネ、メガネ……」

まじかる☆アリサ「はい、どうぞ」

と、マキアスに眼鏡をかけてやる。

マキアス「（その顔を見て）！」

アリサ、ニッコリ微笑むと、空高くジャンプして去っていく。
その姿を呆然と目で追うマキアス。

マキアス「（赤面し）……いいな」

エリオット「うん」

頷くエリオット。

□同・店の裏の路地

変身の解けたアリサが、エリゼを抱き起こしている。

アリサ「エリゼちゃん、大丈夫？」

エリゼ、ゆっくりと目を覚まして、

エリゼ「……ううっ……兄様？　リィン兄様はどこに……？」

立ち上がり、辺りを見回すエリゼ。

アリサ「さ、さあ、どこかしら……？」

エリゼ「おどき下さい！　リィン兄様！　兄様はどこですか！　兄様ーーっ！」

リィンを探して走っていくエリゼ。
モナがアリサの背後から顔を出して、

モナ「すごい兄妹愛モナ……」

アリサ「そういえば、リィンの姿、見なかったような……？」

□離れた公園の茂み——

リィン「ハァハァハァ……」

変身が解けたリィンが、苦しそうに右手を押さえている。

リィン「何なんだ……。この宝石は……いったい何なんだっ……。俺は今まで、何をしていたんだ……⁉」

その右手の甲には、どす黒い宝石が埋め込まれていて——。

〈つづく〉



⚜第2話『二人目の魔法少女!?』

⚜登場キャラクター

アリサ・ラインフォルト（まじかる☆アリサ）
モナくん
〇
ラウラ・S・アルゼイド
エマ・ミルスティン
マキアス・レーグニッツ
エリオット・クレイグ
エリゼ・シュバルツァー
クロウ・アームブラスト
トワ・ハーシェル
シャロン・クルーガー
トヴァル・ランドナー
フェリス・フロラルド
〇
リィン・シュバルツァー（魔界皇子リィン）
魔界貴族ユーシス
怪物
〇
その他

□ 朝――

目覚まし時計が鳴り響く中で、

モナ　「アリサ、起きるモナ！　朝だモナ！」

ベッドの上でピョンピョン跳びはねているモナくん。

アリサ　「ん……」

アリサ、ゆっくりと目を開けると、その視界にどアップで映るモナくん。

アリサ　「ああ、なんだ……。夢か……」

布団を被り、また眠ろうとするアリサに、

モナ　「夢じゃないモナ!!」

と、アリサの顔に覆い被さった。

アリサ　「（息ができず）む、むぐぐぐ……」

慌ててモナくんを引っぱがすアリサ。

アリサ　「ぷはあああっ……！　し、死ぬかと思ったじゃないの！」

モナ　「こっちも死ぬかと思ったモナ……」

壁にベシャッと張り付いて、平らになっているモナくん。

アリサ　「……あ、ご、ごめん……」

アリサ、ふうっと息を吐いて立ち上がると――。

アリサ　「あれはやっぱり……」

× × ×

フラッシュ――#1より。

――魔法少女に変身して戦うアリサ。

――その前に立ちはだかる魔界皇子。

――眼鏡の怪物などの様子が脳裏に蘇る。

× × ×

アリサ　「本当のことだったのよね……」

モナ　「当たり前モナ！　アリサは魔法少女になったんだモナ！」

アリサ、モナくんの顔を掴むと、

アリサ　「昨日は帰ってくるなり、疲れて寝ちゃったけど……あなた何者なのよ？」

モナ　「モナ!?」

アリサ　「魔法少女って、いったい何!?　ちゃんと説明して！」

ズイッとモナくんに顔を近づける。

モナ　「そ、それはこれから、たっぷり説明するモナ!!」

キランと目を輝かせるモナくん。

□ オープニング

□ 自室でいきなり変身するアリサ

まじかる☆アリサ　「あなたに届け！　愛と希望と魔法の戦士！」

ピンク色の服を来た、魔法少女まじかる☆アリサに変身！

まじかる☆アリサ　「魔法少女まじかる☆アリサ！」

自分の姿を鏡でマジマジと見て、汗ジトになるアリサ。

まじかる☆アリサ　「うう、やっぱりこれは絶対に、人には見せられない衣装だわ……」

モナ　「そうモナ。魔法少女であることは、絶対に人にバレてはいけないモナ！」

怖い顔で言うモナくん。

まじかる☆アリサ　「も、もし、バレちゃったら？」

モナ　「モナになってしまうモナ！」

まじかる☆アリサ　「えええええーーっ!!」

× × ×

アリサのイメージ――

モナくんと手を繋いだ、モナの姿になったアリサ（髪型がアリサのまま）が、

モナアリサ　「いらっしゃいませモナ！」

マクモのカウンターでお客を出迎える。

× × ×

顔面蒼白のアリサ、ポンと変身が解けて、

アリサ　「そ、そんなの絶対いやーーーーっ!!」

モナ　「ショックで変身が解けたモナ」

アリサ　「そりゃそうよ！　絶対いやよ！　そんな姿なんかに誰が……！」

と、モナくん、わざとらしく黄昏れて、

モナ　「モナも、好きでこの姿になったわけじゃないモナ」

アリサ　「あ、ああ、そうだったわね……。あなたは元々、どんな姿だったの？」

モナ　「ふ、それは秘密モナ……。モナはモナの国の国王モナ」

アリサ　「モナモナうるさい……」

モナ　「ちゃんと聞くモナ！　そもそも、『ＡＲＣＵＳ』は、モナの国に昔から伝わっていた伝説の変身アイテムモナ」

アリサ　「これが……伝説のアイテム？」

ＡＲＣＵＳを取り出すアリサ。

モナ　「実は、悪の魔王によってモナの国は征服され、この『ＡＲＣＵＳ』を手に、命からがら脱出してきたモナ！」

と、どこからともなく残り二つのＡＲＣＵＳを取り出すモナ。

アリサ　「あと二つもあるの!?　っていうか、魔王ってなに!?　あの魔界皇子に関係あるの!?」

モナ　「魔界皇子は魔王の息子……。この世界を征服しようと企んでいるに違いないモナ！」

アリサ　「ヤツを倒して、モナの国も救って欲しいモナ！」
アリサ　「ちょ、ちょっと待ってよ！　話が壮大すぎてわけが分からな……」
その時――コンコンとノックされる部屋の扉。
アリサ　「⁉」
扉の向こうから、
シャロンの声　「アリサお嬢さま。今朝は、アルバイトはよろしいのですか？」
アリサ　「あ！　そ、そうだったわ！　すぐ行くから！」
慌てて着替え始めるアリサ。
すぐにハッと気付いて――。
アリサ　「あなたはあっち向いてなさい！」
モナ　「モナっ⁉」
またもベシっと壁に叩きつけられるモナくん。
ずるりと落ちて。
モナ　「国王にこの仕打ち、ひどいモナ……」

□　サブタイトル

□　マクモナルド・全景

昨日の事件が嘘のように片付いている商店街。
人通りも戻っている。

□　同・店内

トワ　「町もすっかり元通りだね」
カウンターから外の様子を見ているトワ。
モナくんもマスコットのふりをしてカウンターにいる。
アリサ　「ええ、よかったですね」
トワ　「そういえば、アリサちゃんは見たの？　魔法少女」
アリサ　「え⁉　ま、魔法少女⁉　私は休憩室でお昼寝してたので……。後で話を聞いただけなんですけど……」
焦って誤魔化すアリサ。
トワ　「そっか、残念だなぁ」
スマホを取り出して見せるトワ。
タップして写真のアルバムを開く。
トワ　「昨日出た怪物さんと変態さんだっけ？　魔法少女さんと一緒に撮影したんだけど……」
×　×　×
回想フラッシュ――応援しながら、トワやエリオット、クロウたちが、戦うまじかる☆アリサをスマホで撮影する。
×　×　×
だが、開いた写真のアルバムには、

壊れた町以外は何も映っておらず――。
トワ　「あの子達が姿を消したら、写真から消えちゃってたんだよね」
アリサ　「（汗ジトで）へ、へえ、不思議なこともあるんですね……」
トワ　「町も元に戻ったし、結局ニュースにもならなくて、都市伝説みたいに言われてるんだよ」
モナがウンウンと頷いている。
モナ　「（小声）これも魔法少女のちからモ…モガッ！」
アリサ、慌ててモナの口を塞ぐ。
トワ　「あれ？　何か言った？」
アリサ　「い、いえ何でも！」
トワ、そのまま離れて、機材の整備を始めたりする。
アリサ　「（小声）あんな姿が晒されなくて、ホッとしたわ……」
モナ　「（口を開いて）あんな姿とは失礼モナ。あれは我が国で由緒正しき……」
アリサ　「ちょっと、黙って……！　あなたはマスコットのふりをしてなさい！」
モナの口を押さえつけるアリサ。
モナ　「モガガガ！」
その時、お店の自動ドアが開いて、

トワ　「いらっしゃいませっ！」
アリサ　「あ、いらっしゃ……」
その言葉を遮って、
マキアス　「美少女だっ‼」
バンッと店に入ってくるマキアス。
マキアス　「あの美少女を、探しているんだ！　どこだ、美少女は⁉」
店内を必死に見渡すマキアス。
アリサ　「は、はあっ⁉」
トワ　「どうしたの、マキアスくん？」
エリオットが後から続いてきて、
エリオット　「すみません。昨日から必死になってあの魔法少女を探してるみたいで……」
やや呆れ気味のエリオットに被せて、
マキアス　「そうとも！　彼女は僕の眼鏡の恩人！　天使！　いや、眼鏡の女神様だっ！」
バンッとカウンターを叩いて、
マキアス　「何としても探し出し、あの時のお礼を一言だな！　そ、そして、お礼の後は、こ、この恋文をだなっ……！」
アリサの前で、ラブレターを取り出すマキアス。
アリサ　「うわ、キモッ……」
ドン引きするアリサ。
マキアス　「君に言われる筋合いはないっ‼　美少女は

どこだっ⁉」
アリサ「し、知らないわよっ！」
トワ「ええっと、ご注文は……」
　エリオット、暴れるマキアスを羽交い締めにして、
エリオット「はいはい、どうどう。他のお客さんに迷惑がかかるからね～。あ、モナバーガーセットと、僕はいつものパンケーキで」
マキアス「ぬうう！　どこだ、僕の想い人はどこだああっ！」
トワ「はーい。お買い上げありがとうございまーす」
　さすがに営業スマイルが崩れかかっているトワ。
　アリサも汗ジトで見送りつつ、
アリサ「そういえば、リィンは？　昨日は、あなた達と一緒じゃなかったの？」
エリオット「ああ、体調を崩して先に帰ってたんだって、後で連絡が来たよ」
アリサ「そっか……。ちょっと心配ね……」

□リィンの部屋

　トントンと部屋の扉を叩く手。
エリゼ「兄様、リィン兄様……？」
　×　×　×
　部屋の中――。
　ベッドの上で一人、蹲っているリィン。
リィン「だ、大丈夫だ、エリゼ……。食事なら、そこに置いていってくれ」
エリゼの声「ですが……」
　ドアに手をかける音に。
リィン「入るなっ！」
　必死に叫ぶリィン。
リィン「頼むから、俺の部屋には……一歩も入らないでくれ……」
　謎の黒い宝石が右手に嵌まっており、ドクンドクンと、鼓動と共に疼いている。
リィン「ハァハァハァ……」
　黒い宝石を見やるリィン。
リィン「（M）これは何なんだ……。俺はいったい何をしていたんだ……何も思い出せない……」
　苦悩するリィン。
　×　×　×
　エリゼ、扉の前に食事のトレイを置き、
エリゼ「（M）まさかとは思いますが……。リィン兄様が……ひきこもりに⁉」
　ショックを受けているエリゼ。

□それから数日後の新学期――

□アリサ達の通う高校・全景

　ライノの花が咲き乱れる中、生徒達が登校してくる。

□同・校門前

　アリサの姿もあり、モナくんがマスコットのふりをして、鞄にくっついている。
アリサ「結局、あれから怪物も変態も出なかったわね」
モナ「油断できないモナ。いつ奴らが来てもいいように、備えるモナ」
アリサ「心配しすぎよ。このまま何事もなく、平和に過ごせたらいいわ」
　と、何かの予感のように、ザザッと一陣の風が吹いてライノの花びらが舞う。
アリサ「（思わず目を覆い）！」
　×　×　×
　一人、校外の通りを歩く生徒が、風に吹かれ、黒い革手袋で覆った右手で顔を隠す。
生徒「（学校を見やり）……」
　×　×　×
　と、モナくんが何かにハッと気付いて、
モナ「アリサ！」
アリサ「え⁉」
モナ「見えてるモナ！」
　なんと、風に吹かれてアリサのスカートがめくれて、モナくんの位置からはバッチリ見えていた。
マキアス「なんだ、今の声は？」
　ちょうど後ろを、エリオットと共に歩いていたマキアス、思わずアリサの方を見て、
マキアス「あ……！」
　スカートの中を目撃しそうになった時である！
女生徒の声「はあああっ‼」
　ドゴンとマキアスに強烈な竹刀の一撃を食らわせる女生徒。
マキアス「ぐわあああっ‼」
　派手に吹っ飛び、地面を転がっていくマキアス。
アリサ「ラ、ラウラ……！」
　アリサ、慌ててスカートを抑え、
　振り切った竹刀をスッとかっこよく構えたのは、長髪の少女――ラウラである。
ラウラ「女生徒のスカートの中を覗くなど、不届き千万！　このアルゼイドの剣にかけて、成敗してくれる！」

ぶっ倒れているマキアス。

周りの女生徒から「素敵っ！」「ラウラ様！」などと、黄色い声援が飛び交う。

ラウラ　「危ないところであったな、アリサ」

アリサ　「あ、え、えっと……。ありがとうって言えばいいのかしら……？」

戸惑っているアリサの所に、

エマ　「いえ、今のは不可抗力と言いますか、マキアスさんに責任はないのでは……」

眼鏡の少女エマも歩み寄ってくる。

ラウラ　「そ、そうなのか……？」

マキアス、頭を抑えながら、

マキアス　「くっ……。エマ君の言うとおりだぞ。僕は風紀委員だ。そんな破廉恥なマネをするものか！」

立ち上がるマキアス。

エリオット　「（ボソッと）生きてたんだ」

マキアス　「（苦笑しつつ）さすが、剣道場の一人娘の一撃。かなり効いたけどな……」

ラウラ、マキアスに歩み寄り、

ラウラ　「すまない。大変失礼した！」

頭を下げて謝るラウラ。

マキアス　「気にしないでくれ。大丈夫だ」

ラウラ　「いや、剣の道に生きる者として、あってはならぬ間違い。誠にすまなかった！」

土下座してマキアスに謝るラウラ。

マキアス　「お、おい……！」

辺りを見ると、「何よ、あの男」「ラウラ様に何を」などと、ヒソヒソ話す女子生徒の姿が。

アリサ　「あ、ああ！　もういいわ！　ラウラ、エマ！　早く教室に行きましょ!!」

アリサ、ラウラとエマの背を押していく。

□　校内にチャイムが鳴り響く

□　同・教室

アリサ　「何はともあれ、二人とも二年生でも同じクラスのようね」

ラウラ　「うん。皆、よろしく頼むぞ」

エマ　「はい、こちらこそ」

固まって席に着いているアリサたち。

他にも、フェリスやベッキー、リンデ、ヴィヴィなどの姿もある。

マキアスとエリオットも同じくいる。

ラウラ、アリサの鞄を見やって、

ラウラ　「ときに、先程から気になっていたのだが……」

アリサ　「え？」



モナくんのマスコットをじっと見やるラウラ。

アリサ　「ああ、これのこと？」

モナくんのマスコット付き鞄を見せる。

ラウラ　「も、勿論、私自身が気になっているのではないぞ！」

ゴホンと咳払いして、

ラウラ　「道場の子供たちの間で話題のようでな！　同じ門下として、如何なる物なのか知っておきたくてな！」

アリサ　「どうぞ、じっくり触ってみて」

モナくんを差し出すアリサ。

ラウラ　「そ、そうか……」

モナ　「（M）モナっ⁉」

恐る恐る手を伸ばすラウラ。

ラウラ　「し、しかし、この私が……このような可愛い物を触るなど、な……」

赤面し、遠慮しているラウラに、

アリサ　「いいのいいの、減るもんじゃないし」

モナ　「（M）そういう問題モナ⁉」

エマ　「マクモナルドのマスコット。女子にも、大人気ですものね」

ラウラ　「い、いやいや、女子などと、この私が……。だが、構わぬというのなら、ほんの少しだけ……」

と、手を伸ばしたとき——。

ラウラ　「（手を止めて）む？」

何かの気配に気付くラウラ。

ガラッと教室の後ろの扉が開いて入って来たのは、リィンだった。

ラウラとアリサたち、そちらに注目し、

アリサ　「あら、リィン。久しぶりね」

と、挨拶するアリサ。

リィン　「……ああ」

一言返事をすると、アリサの席の後ろに座るリィン。

アリサ　「（気付いて）その手……？」

見ると、リィンは右手に黒い革手袋をはめている。

マキアス　「どうしたんだ、リィン？」

エリオット　「怪我でもしたの？」

リィン　「いや、何でもない……」

マキアスとエリオット、ラウラも見て、

ラウラ　「ふむ……。同じ剣の道を志す者として、看過できぬな」

アリサ　「そうよ。大丈夫なの？」

心配したアリサが、リィンの手に触れようとすると——。

リィン　「触るなっ——！」

思わず大声で叫ぶリィン。

アリサ　「ど、どうしたのよ……⁉」

驚くアリサたち一同。

リィン　「……！」

ハッと我に返るリィン。

右手を暫し見つめ、何かを決意すると、バッと椅子の上に立ち上がり、

リィン　「わ、我が右手は……闇の眷属のしもべなり！　触れる物全てを、闇に取り込んでしまうのだ‼」

いきなり厨二病臭い台詞を吐く。

アリサ　「は、はあっ⁉」

ラウラ　「何のつもりだ⁉」

ドン引きするアリサたち。

マキアス　「リィン、君はまさか、あの変態皇子の真似でもしてるのか⁉」

リィン　「ハ、ハーッハハハハ！　ハーッハハハハハ！　まあ、そんなところだ！」

その濃いキャラに他の女子達もドン引き。

アリサ　「へ、変よね……。あんなキャラじゃなかったような……」

ラウラ　「うん。何やら、どす黒い邪念のようなものを感じるな……」

エリオット　「ただの厨二病じゃないの？」

そこに——

教師の声　「よっ、待たせたな！」

颯爽と入ってくる教師。

トヴァル　「担任のトヴァルだ！」

白衣を着た化学教師のトヴァルだ。

エマが首を傾げて、

エマ　「あの……。このクラスの担任はサラ先生とお聞きしていたのですが？」

トヴァル　「ああ。確かにそうだったが、サラ先生は先日、寿退職されてな！」

アリサたち　「ええーーっ⁉」

ドっと驚きの声に包まれる教室。

マキアス　「あ、あの、万年独身、大酒飲み残念女教師と言われたサラ先生が⁉」

エリオット　「言い過ぎだよ。だいたい当たってるけど」

トヴァル、生徒達を見渡し、

トヴァル　「おいおい、静かにしろ。早速、お前達に新しい仲間を紹介するぞ」

ザワっと盛り上がる教室。

アリサ　「転校生かしら？」

エマ　「二年からとは、珍しいですね……」

トヴァル　「ほら、入れー！」

男子生徒の声　「うーっス」

トヴァルの呼び掛けに、教室に入ってくる男子生徒。

アリサ　「……えっ！」

呆気に取られるアリサ。



黒板の前で、大きくチョークでカッと名前を書いていく男子生徒の手。

リィン「なっ……！」

男子生徒、黒板に名前を書き終えると、一同を振り向いて、

クロウ「――クロウ・アームブラストです。今日から皆さんと一緒のクラスで、お世話になります」

と、真面目に挨拶するクロウに、

リィン「ク、クロウ先輩⁉　何でクロウ先輩がここにっ⁉」

ざわざわと驚く生徒たちに、

トヴァル「いやあ、コイツちょいと単位が足りなくてな。ようは留年ってやつだ」

クロウ、リィンにウィンクし、

クロウ「ってなわけで、お前に借りた50ミラはまた来年、三年生になったら返すぜ。よろしく頼むわ！」

リィン「はああああっっ⁉」

クロウのあまりの軽さに、呆れ果てるリィンとアリサたちで――。

〈中ＣＭ〉

□ 高校・体育館（全景）

ラウラの声「はあああああっ!!」

□ 同・ステージ

──で、竹刀を振るったラウラ（胴着も着ている）が、

ラウラ「めーーんっ!!」

剣道着を着せた人形に、見事な面を打ち込んだ。

「きゃあ！」

「素敵ーっ！」

などと、一斉にステージ下の女子達から、拍手喝采がわき起こる。

──新一年生向けの部活紹介中である。

ラウラ、マイクを手に、

ラウラ「私はラウラ・S・アルゼイドだ。実家は剣道場で、今も修行中の身……」

スッとかっこよく竹刀を構えて、

ラウラ「例え学業中であっても、常にフィジカルを鍛える。そのために我ら女子水泳部はもってこいの場だ！　強き肉体と心を持つ新入部員を求めている！」

呼吸一つ乱さず話すラウラ。

× × ×

その様子を──ステージ袖に控えたアリサが、驚きの顔で見ている。

アリサ「さすが、ラウラ。あんなに激しいパフォーマンスをしても、息一つ乱れてないわね……」

アリサはラクロス部のユニフォームで、ラケットも手にしていて、ポケットにモナくんを忍ばせている。

モナ「なかなかだモナ。第二の魔法少女の素質を感じさせるモナ」

アリサ「ちょ、あんたは黙ってて……！」

同じ部のフェリスが、

フェリス「アリサさん、集中なさって。ラクロス部も、新入生獲得を目指しますわよ！」

アリサ「え、ええ……」

慌ててモナくんを引っ込めるアリサ。

× × ×

ステージ上のラウラ、マイクを手に盛り上がって、

ラウラ「一にフィジカル、二にフィジカル！　我らはいつでも、待っているぞ!!」

拍手喝采が巻き起こる。

司会役のマキアス、やや汗ジト気味で、

マキアス「以上で、女子剣道部……じゃない。女子水泳部の新歓パフォーマンスは終わりだ」

ラウラ、ペコリと一礼して去る。

× × ×

ステージ袖──

ラウラが、剣道着を着せた人形を抱えて戻ってくる横で──。

マキアスの声「続いて、男子剣道部！」

リィンら、男子剣道部が控えている。

リィン「見事な打ち込みだったな」

ラウラ「そなたらのパフォーマンスも、期待しているぞ」

リィン「ああ……。でも、惜しいな。ラウラがうちの部に入っていれば……」

ラウラ「仕方あるまい。この学校には、女子剣道部がないのだからな」

リィン「確かにな……」

苦笑しつつ、片手を振るとステージに出て行くリィン。

と、ラウラ、リィンの右手の革手袋を見て、

ラウラ「（M）あの手、やはり気になるな……。怪我などしてなければよいのだが」

× × ×

体育館──。

一年生の生徒達の中に、エリゼもいる。

エリゼ「いよいよ、男子剣道部！　リィン兄様の出番ですね！」

笑顔でステージを見やるエリゼ。

× × ×

だが──。

他の部員と共に、舞台に立つリィン。

リィン「……」

心なしか緊張して、右手を握る。

マキアス「どうした？　男子剣道部？」

ドクンと、リィンの鼓動が高鳴る。

リィン「──！」

ザワザワと響く一年生の声。

リィンの視界が鼓動と共に歪んでいく。

マキアス「リィン？」

リィン「！」

ハッとなったリィン、右手を押さえ、

リィン「す、すまない……。俺は下がらせてもらう」

そう言い、他の部員達を残して、ステージの袖に消えていく。

× × ×

袖に戻って来たリィンに、

エリゼ「兄様!?」

アリサ「リィン？」

ラウラ「どうしたのだ？　今朝から、様子が変だぞ？」

と、気を遣って話しかけるが、

リィン「な、何でもない……。大丈夫だ……」
　と、出て行くリィン。
アリサ「……心配ね。この前も、体調崩したって聞いたし……」
モナ「そうモナ？」
　見送るアリサ。

□体育館裏――

　リィンが一人、右手を押さえながらやってくる。
リィン「くっ……またか……なぜなんだ……」
　革手袋を外すと、一際黒く輝く右手の黒い宝石！
　×　×　×
　体育館内――アリサの胸元の宝石が、ボウッと淡く輝く。
アリサ「え⁉」
　×　×　×
　体育館前では――ラウラが、竹刀や人形を抱え、他の部員達と共に出て来る。
　そこに――。
声「ぐおああぁっ……！」
ラウラ「む⁉」
　驚く他の部員達。
ラウラ「何事だ……！」
　×　×　×
　ダッと体育館裏に駆けてきたラウラ。
ラウラ「！」
　なんとその前には、黒いオーラに全身を包まれ、リィンが変身した魔界皇子の姿が！
魔界皇子「グオオオオッ……。疼く、我が右手が、疼くっ！」
ラウラ「ふ、不審者め……！　そこに直れ！」
　と、ラウラが竹刀を構えたとき、
魔界皇子「ククク……。丁度いいものがあるじゃないか」
ラウラ「なに⁉」
　ラウラの傍らにある剣道着を着せた人形を見るリィン。
魔界皇子「我が眷属として、そいつをもらいうける……！」
　カッと右手から黒いオーラを放ち、そのオーラが人形を包む。
　途端に、巨大化を始め、怪物へと変化する剣胴着を着た人形。
ラウラ「――！」
　愕然となるラウラ。

□同・体育館内

　エリオットら吹奏楽部員が優雅に演奏をしている中で――。

　突如――ドゴン！　と、体育館の壁が突き破られる。
怪物「オメーーン‼」
　と叫んで、剣道着を着た巨大な怪物が体育館に侵入してきた。
　×　×　×
アリサ「あれは⁉」
　ステージ袖から顔を出して驚くアリサ。
　×　×　×
　さらに、黒衣に身を包んだ魔界皇子も壁の穴から現れる。
魔界皇子「フハハハハ！　弱き人間共よ！　魔界皇子の名において、叩きつぶしてくれるわ！　行け！」
怪物「オメーーン‼」
　叫びながら巨体からパンチを繰り出して、体育館の壁や床を破壊していく怪物。
女子生徒「きゃあああ！」
エリゼ「へ、変態よーーっ！」
　などと、悲鳴に包まれる体育館内。
　×　×　×
モナ「アリサ、魔界皇子の襲撃モナ！　早く変身するモナ！」
アリサ「で、でも……ここじゃ……！」
　体育館内を逃げ惑う一年生達。
　フェリスや、他の部の部員達もそばにいる。
アリサ「変身なんてできないわ……」
　×　×　×
　ステージでは――。
　バイオリンの弦を手にしたエリオットが、静かに怒りを溜めていて、
エリオット「僕の最高のステージを邪魔するなんて……。幾ら変態でも、許さないよ……！」
　×　×　×
　その顔を見たモナ君が、
モナ「凄い殺気を感じるモナ！　あの子こそ、第二の魔法少女に……！」
アリサ「エリオットは男子よ、男子っ！」
モナ「（真顔で）そうだったモナ⁉」
　×　×　×
　と、マキアスがエリオットの首根っこを掴んで、
マキアス「何をやってるんだ！　全員、ここから避難だーーっ‼」
　マイクで叫ぶが、
「きゃあああ！」
「助けてええ！」
　などと、大パニックに陥る体育館内。
魔界皇子「フハハハハ！」

怪物　「オメーーン！」
　体育館を破壊する怪物。
マキアス　「くっ……どうすれば……！」
　その時——。
ラウラの声　「皆、落ち着くのだ！」
　なんと、竹刀を構えたラウラが、怪物の前に立ちはだかった。
ラウラ　「私がこやつを食い止める！　その隙に、避難を‼」
　そう言い、怪物に果敢に竹刀で挑む。
ラウラ　「はああああっ！」
　打ち込みが見事に決まったかに見えるが、
怪物　「オメーーン！」
　ガシッと竹刀を受け止める怪物。
ラウラ　「くっ……！　急げっ‼」
　怪物と鍔迫り合いしながら指示を出すラウラに、一年生の生徒達、一斉に逃げ出す。
　×　×　×
マキアス　「さあ、僕たちも！」
エリオット　「ちぇっ……」
　エリオットと共に、生徒達を連れて逃げ出すマキアス。
　アリサはステージの幕に身を隠して残り、

アリサ　「ラウラ……無茶よ……！」
モナ　「モナ……！」
　×　×　×
　ラウラ、一対一で怪物と対峙。
魔界皇子　「フハハハ！　生身で我が眷属に挑もうとは、片腹痛いわ！」
　怪物の背後に控えている皇子に、
ラウラ　「何事もフィジカルだ。この私の鍛えた腕で、化け物など追い払ってみせる！　はああっ！」
　上段に竹刀を構えて突進！
魔界皇子　「やれ！」
怪物　「オメエエン！」
　怪物も突進、ラウラに体当たりを喰らわせる。
ラウラ　「ぐうっ⁉」
　宙に投げ出される竹刀。
　ラウラも吹っ飛ばされ——。
　ステージに叩きつけられる。
　その脇に、落ちてきた竹刀が転がる。
　気絶したかに見えるラウラ。
魔界皇子　「ふっ。口ほどにもない。行くぞ！」
　魔界皇子、サッと踵を返し、怪物を率いて体育館を出ようとする。
　×　×　×
アリサ　「……ラウラ……！」

　ステージ上のラウラに駆け寄るアリサ。
モナ　「今なら変身できるモナ！」
　体育館内は無人で、
アリサ　「そ、そうね！　分かったわ……！　ラウラ、少しだけ、待ってて……！」
　素早くARCUSを掲げるアリサ。ARCUSの光に包まれ、空中に飛び出し、変身を始める。
魔界皇子　「む⁉　この光は⁉」
　驚き振り返る皇子。
　——変身BANK。
　目を閉じ、ARCUSと融合した宝石を胸に当て、神々しい光に包まれるアリサ。
まじかる☆アリサ　「あなたに届け！　愛と希望と魔法の戦士！」
　ピンク色の服を着た、魔法少女まじかる☆アリサに変身！
まじかる☆アリサ　「魔法少女まじかる☆アリサ！」
　スタッと着地し、可愛く決めポーズした。
魔界皇子　「ククク、またも現れたか！　我が宿敵、まじかる☆アリサよ‼」
まじかる☆アリサ　「学校を壊すなんて、許さないわ！　はあああっ！」

　ジャンプして怪物にキック！
　その足が魔法の光に包まれて、
怪物　「オメーーン⁉」
　蹴りを食らい、皇子に衝突して壁に吹っ飛ばされる怪物。
魔界皇子　「ぐわっ！」
　怪物との間で、壁に挟まれる皇子。
まじかる☆アリサ　「や、やったわ！」
　着地するアリサ。
　その背後から——。
ラウラの声　「そ、そなたは……‼」
まじかる☆アリサ　「えっ——⁉」
モナ　「モナっ⁉」
ラウラ　「アリサ……なのか⁉」
　驚き、振り返るアリサとモナくん。
　なんと、ラウラは強靭な体のおかげで無傷で立ち上がっており、
ラウラ　「……見たぞ……。眩き光に包まれて、そなたが変身……する姿を……！」
まじかる☆アリサ　「えええええーーっ⁉」
モナ　「み、見られたモナ……！」
まじかる☆アリサ　「そ、そんな……！」
　×　×　×
　フラッシュ——モナくんと手を繋いで、仲良く登校するモナアリサの姿！

アリサの声　「も、モナになっちゃうわ……！」

　×　×　×

　アリサ、慌てて誤魔化して、

まじかる☆アリサ　「違う、違うのよ、ラウラ！　何も見てない、見てないわよね！」

ラウラ　「いや、確かにこの目で！」

　顔面蒼白のアリサに、

モナ　「心配ないモナ！　この子を魔法少女にすれば、万事解決モナ！」

まじかる☆アリサ　「はあああっ!?　そ、そんな無茶苦茶な!?」

ラウラ　「ま、魔法少女だと!?」

　モナくん、ピョンと跳ねて、ARCUSを差し出すと、

モナ　「この変身アイテムARCUSを使えば、君も魔法少女モナ!!　この世界を守るため、変身するモナ!!」

ラウラ　「世界を……守る……」

　グッと考え込むラウラ。

ラウラ　「そうか……皆を守るため。ならばよかろう」

まじかる☆アリサ　「受けるの!?」

ラウラ　「だが、一つだけ条件がある」

モナ　「何でも言ってみるモナ！」

　ラウラ、スッと息を吸うと、決意の顔で、

ラウラ　「お、お……お主を、モフモフさせてくれっ……！」

モナ　「モナッ!?」

　と、魔界皇子がようやく怪物をおしのけ、

魔界皇子　「くううっ！　この俺を差し置いて、何を話している！　やれ！」

怪物　「オメメーン!!」

　突進してくる怪物に、

まじかる☆アリサ　「くっ……！　ここは、私に任せて！」

　ジャンプして、魔法の光に包まれた拳で怪物にパンチを食らわせる。

　ラウラはモナくんを抱え、竹刀で飛んでくる瓦礫を避けながら打ち明ける。

ラウラ　「私は幼い頃より、父に剣士として育てられてきた」

　×　×　×

　回想で——父・ヴィクターと共に剣の素振りをする幼いラウラ。

ラウラの声　「それゆえ、可愛い物を愛でることを己に禁じてきたが……」

　——おもちゃ売り場で、変身魔法少女のマスコット妖精のクマを見る幼いラウラ。

ラウラの声　「だが、だめなのだ……。本当は私は、可愛い物がどうしようもなく好きなのだ！」

　——モフモフしたクマのつぶらな瞳

に惹かれ、手を伸ばしかけるが、幼いラウラ、かぶりを振り、ダッシュで離れる。

　×　×　×

ラウラ　「そして今は……マクモナルドのマスコット……。そなたをモフモフしたくて、たまらないのだ！」

　グッとモナくんに顔を近づけるラウラ。

モナ　「モナーっ!?」

　アリサ、必死に怪物と戦いながら、

まじかる☆アリサ　「頼むわ、モナくん！　私一人じゃ……！」

モナ　「し、仕方ないモナ。背に腹は代えられないモナ！　さあ、モフモフするモナ！」

ラウラ　「いいのか!?　本当にいいのだな!?」

モナ　「どんとこいモナ!!」

　覚悟を決めてお腹を差し出すモナくん。

ラウラ　「う、うおおおおおっ！　モフモフだああっ！」

　モナくんのお腹を、思いっ切りモフモフするラウラ!!

モナ　「も、モナモナモナ〜〜っ！　そ、そこはだめモナ〜〜〜っ!!」

ラウラ　「みなぎる……。力が、みなぎる!!」

　モナ君が気絶寸前で意識が薄らぐ中、カッとARCUSが光を放つ。

ラウラ　「これは……！」

　竹刀と融合し、変身アイテムになった。

ラウラ　「変身だ！」

　ARCUSと融合した竹刀を持ち、かっこよくポーズを決めて、光に包まれるラウラ。

　——変身BANK。

ラウラ　「そなたに届け！　力と勇気と魔法の戦士！」

　青い服を着て、大剣を手にした魔法少女まじかる☆ラウラに変身！

まじかる☆ラウラ　「魔法少女！　まじかる☆ラウラ!!」

　着地し、かっこよく大剣を構えた。

まじかる☆ラウラ　「こ、これが、私……!?」

　自分の姿を見て驚くラウラ。

まじかる☆ラウラ　「なんという……ヒラヒラ……」

　思わず赤面してしまうが、

まじかる☆アリサ　「ラウラ、力を貸して！」

　その声に、ハッと顔を上げ、

まじかる☆ラウラ　「心得た……！」

　ダッと駆け出すラウラ。

魔界皇子　「おっと。貴様の相手はこの俺だ！　これでようやく二対二、対等になったな！」

と、皇子は余裕の表情を見せるが——。

まじかる☆ラウラ「はあああああっ！」

と、気合い一閃させたラウラの剣撃に危うく斬られそうになる皇子。

魔界皇子「（かわして）ぬおおおおっ⁉」

まじかる☆ラウラ「ちぃっ！」

返す刀で、大剣を床に打ち付ける。

魔界皇子、なんとか飛び退き、

魔界皇子「き、貴様は、魔法少女ではないのか⁉　なんだその攻撃は⁉」

ラウラ、かっこよく剣を構え、

まじかる☆ラウラ「フ……。私は魔法などに頼らぬ！　戦いの基本は、フィジカルだあああっ‼」

ドゴーンと気合い一閃、振り回した大剣が皇子にヒット！

魔界皇子「ぬおわあああああっ！」

体育館の屋根を突き破って吹っ飛んで行く皇子。

魔界皇子「おのれえええ！　覚えておれ、まじかる……いや！　ふぃじかる☆ラウラよおおおっ！」

空の星になった。

怪物「オメーン⁉」

怪物がそれを見てたじろぐ。

まじかる☆ラウラ「今だっ、アリサ‼」

まじかる☆アリサ「ええっ！」

キッと決意の顔になると、トゥインクル・スターを光と共に出現させるアリサ。

怪物「オメーン……！」

突っ込んでくる怪物に狙いを定め、弓を引き絞るアリサ。

まじかる☆アリサ「はあああああっ！」

愛の力が矢の先に集中して——。

まじかる☆アリサ「あなたにお届け！　愛と希望の流れ星！」

グッと引き絞った弦を解き放ち、

まじかる☆アリサ「まじかる☆アリサ！　ラブ・シューティングスター‼」

愛の力を込めた虹色の矢を撃った。虹色の矢は怪物の体を貫いて、ハート型の光で包み込む。

怪物「ゴメーン‼」

断末魔と共に浄化される怪物。

まじかる☆ラウラ「やったな！　アリサ！」

まじかる☆アリサ「ええ……！　ラウラ！」

グッと拳を突き合わせる二人。

体育館が元に戻っていき——。

□　同・アリサたちの教室

教室に戻るラウラとアリサ。

マキアス「ぬぅう！　またも美少女が出たというのか！　なぜ僕は避難したのだ！」





エリオット　「ほんとほんと。僕も残ってたら、あの手この手であいつを苦しめてやったのに」

サラッというエリオット。

アリサ　「（ラウラに）どうやら、みんな気付いてないようね」

ラウラは、モナ君をモフモフしつつ、

ラウラ　「うん。魔法少女も、悪くないものだな……。これからもよろしく頼むぞ！」

モナ　「か、勘弁してモナ〜……」

モフモフされすぎて、激ヤセのモナくん。

アリサ　「（苦笑して）あ、あはは……」

席に着くと、またもリィンはいない。

アリサ　「そういえば、リィンは……」

心配そうに席を見た。

クロウもリィンの席を見ていて。

クロウ　「……」

□　魔界・全景――

空が黒雲に覆われた荒れ地を稲妻が照らし。

地平線に巨大な魔王の城が聳えている。

□　同・玉座の間

玉座の前に跪く緑の服の剣士の姿。

シルエットで見える魔王に向かって、

声　「かしこまりました、魔王様……」

顔を上げたのは――緑のマントを纏った貴族の青年。

ユーシス　「この魔界貴族ユーシス――。名門アルバレア家の名にかけて、ご子息に助太刀して参ります」

魔界貴族ユーシスがかっこよくマントを翻して立ち上がり、人間界に向かったところで――。

〈つづく〉



定価：1000円（本体909円+税）
ISBN978-4-8021-3309-8
発行：フィールドワイ 発売：メディアパル

◉フィールドワイ公式HPはこちら ➡ www.field-y.co.jp
◉ファルコムブックス公式HPはこちら ➡ www.field-y.co.jp/falcombooks

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！



3名様

『も～っと集まれ！ファルコム学園』缶バッジ

大人気!! オリジナル缶バッジを5個セットで3名にプレゼント！ ※絵柄はランダムです。

ご応募は特設サイトまで ▶ http://www.field-y.co.jp/root/falmagap/

メールでご応募の場合は下記フォーマットに記入のうえ、（falmaga@field-y.co.jp）まで
お送りください。当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

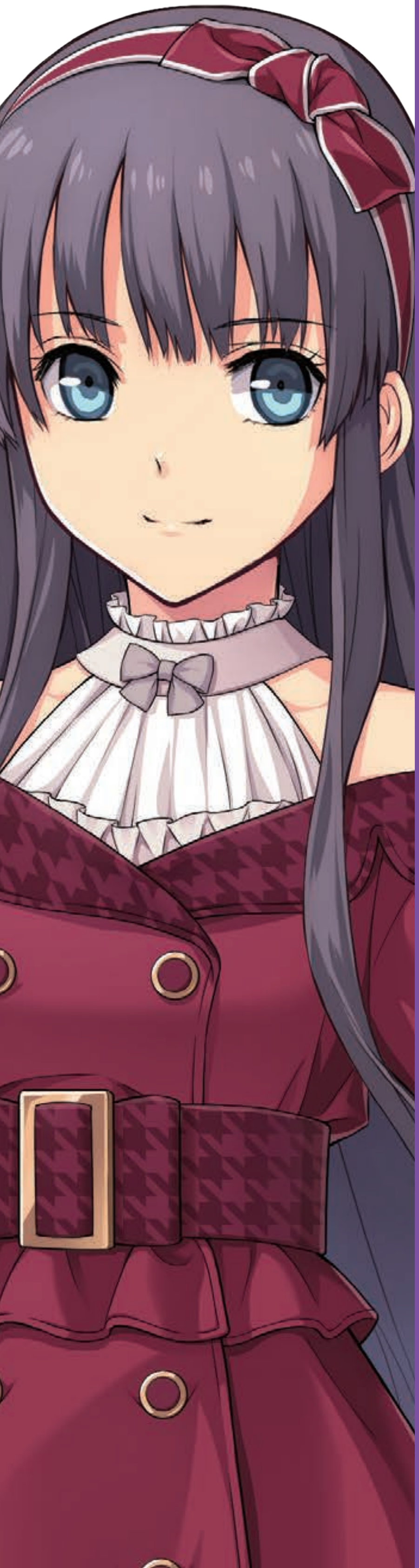
件名：vol.132プレゼント係
1：お名前（ペンネーム可）
2：面白かった記事の番号→
　つまらなかった記事の番号→（記事一覧から１つずつ）
3：アンケート①バレンタインチョコをあげたい／もらいたいキャラクターは？
　アンケート②春と聞いてイメージするキャラクターは？
4：希望するプレゼント番号
5：ご意見・ご感想など

記事一覧

1：も～っと集まれ！ファルコム学園
2：英雄伝説 空の軌跡SC ～絆の在り処～
3：ファルコムニュース
4：暁の軌跡最新情報
5：魔法少女まじかる アリサ 決定稿

応募締め切り 2月24日（木）

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、商品の発送のためにのみ利用し、そのほかの目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。



月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.132

発行人　田中一寿

発行協力　日本ファルコム株式会社

編集　小渕智幸
河野崇

デザイン・DTP　株式会社 ACQUA

表紙ロゴデザイン　荻窪裕司（デザインクロッパー）

発行　株式会社フィールドワイ
〒 101-0062
東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F
TEL 03-5282-2211（代表）
http://www.field-y.co.jp/